

平成26年度総務省事業

「ICT利活用による高齢者の社会参画
促進に向けた実証」

報告書

平成27年3月31日

一般財団法人 ニューメディア開発協会

目 次

1. 実証事業の概要 1

高齢者のICTリテラシーを向上させるために、ICTの学び場を創設するとともに、情報取得から情報の発信及び交流に至る個々のニーズに応じた多様なコミュニティ及び社会参画が可能となる環境を整備する必要がある。そのため、「高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会」の実証を行い、この実証を通じて得た成果を広く他の地域へと展開する。

2. 実証事業の内容 3

2.1 講習会の実施計画等 3

(1) 有識者検討委員会の運営 3

ICTリテラシー等に関する有識者6人で構成する「有識者検討委員会」を組成し、5回の有識者検討委員会を開催した。

(2) 講習会の実施計画の立案 5

① ICTリテラシー向上に係る目標等の設定 5

OECDの「国際成人力調査のITを活用した問題解決能力」の「習熟度レベル1；電子メールソフトやウェブブラウザなどの汎用的なアプリケーションを利用して、自分で必要な情報へのアクセスや情報交換を行い、問題解決する操作ができるレベル」程度をICTリテラシー向上に係る目標値とした。

② 講習会実施計画書の作成 7

講習会は、全国11の地域で開催することとし、総務省が公募で決定した11自治体を前半グループと後半グループの二つのグループに分けて実施した。また、講習会は、各自治体の行政区域に存在する3か所の会場で、同じ内容の講習を3か月間で6コース（コース：15人の受講者、1コマ3時間程度の講習を全4コマ）を実施し、総受講者数を990人と設定し、計画書を策定した。

③ 標準カリキュラムの作成 22

各地域における講習内容は、バラツキが生じないように、ICTリテラシー向上や社会参画促進に資する内容を基本とした標準カリキュラムを作成した。標準カリキュラムは、単にICTのスキル習得に留まらず、高齢者が地域で活躍できる戦力であることを気付かせ、行動へつなげるための動機付けを行うことに留意し、社会に貢献している実感が得られるカリキュラムとした。

④ 実施体制及び協力体制 30

本実証事業は、総務省から一般財団法人ニューメディア開発協会が請け負い、その実証を行うための実証フィールドの提供を自治体等から受ける形で実施した。各地域で実施する講習会は、自治体とその地域で活動を行っているシニアネット団体等（運営協力団体）の協力を得て、受講者に対してもきめ細やかな対応がとれる体制で実施した。

2.2 講習会の事前準備 32

(1) 会場及び利用機器の選定等 32

① 会場の選定及び確保 32

講習会の会場は、自治体と調整して選定した。会場の選定は、交通の便が良く、15人の受講者に対応でき、十分なインターネット接続環境を整備できる会場を選定した。しかし、インターネットへの接続環境が不十分な会場もあった。

② 利用機器の選定及び配備 32

講習会で使用するタブレットは、iOSとAndroid OSの二つの異なるOSを選定した。各々の地域の講習会で使用するOSは一つに統一した。講習会の実施前に、通信関係の設定、メール等のアカウント設定、アプリケーションの設定などを行い、事前の動作確認も実施した。

(2) 教材の作成 33

① 講師用研修教材の作成 33

講師用研修教材は、各地域での講習内容の整合性を確保するため、具体的な作業、講習の内容、講習の進め方、講習のポイントを例示し、タブレット2機種(OS)それぞれに対応して作成した。

② 受講者用研修教材の作成 33

受講者用研修教材は、視覚的にイメージがしやすいように図形による描画、写真又は画像の取込み等を駆使し、操作上の留意点を具体的に例示し、受講者が理解し易い教材となるように、タブレット2機種(OS)それぞれに対応して作成した。

(3) 講師及びICTサポーターの配置等 37

① 講師の配置及び研修 37

講習会の講師は、運営協力団体が推薦したシニアボランティアから選任し、標準カリキュラムの講義方法を習得するための研修を実施した。講習会の受講者4人に対して1人の講師を配置した。講習会を実施する地域毎に7人以上の配置を基本とする体制とした。

② ICTサポーターの配置 38

ICTサポーターは、講習会を実施する運営協力団体と連携して、高齢者と円滑にコミュニケーションを取ることができる者を選任し、講習会を実施する自治体毎に5人以上を基本とする体制とした。

(4) 受講者の募集 39

① 講習会の募集支援 39

受講者の募集は、広報を発行する自治体と運営協力団体と連携して、効果的かつ効率的な方法を検討して実施した。募集資料は、各自治体で活用できる共通的な雛形を作成し、その雛形を元に募集資料を作成して公募した。

② 講習会の応募及び受講者の選定…………… 39

受講者の公募は、費用対効果を考慮しながら、各地域の実情に合わせた募集方法で実施した。応募者数は地域によって異なったが、全体の応募者は、予定していた総受講者数の約1.5倍であった。

2.3 講習会の実施…………… 41

(1) 講習会リハーサルの実施…………… 41

各地域において、最初の講習会会場で講習会を実施する前にリハーサルを行い、標準カリキュラムの4コマ（第1日目から第4日目まで）全ての具体的な内容の他、問題なく講習会が実施できることを確認した。

(2) 講習会の実施…………… 41

講習会は、各地域の会場において、1コマ3時間程度の講習を全4コマ、これを1コースとして、標準カリキュラムに基づく講義を実施した。

(3) 受講者代表による成果発表会の実施…………… 46

各地域の受講者等から代表者1人、合計11人に、「高齢者が社会参画を実現し、自らを活かし、役割を担った事例」等について報告を頂き、講習会の在り方、社会参画の在り方等について、出席者全員で討論した。

(4) ICTリテラシー向上のメリットや効果的かつ効率的な講習方法の調査結果…………… 48

講習会の成果を確認するため、講習会の受講者及び講師等に対して、講習会の受講実績等を問う調査項目を設定し、講義終了直後に関連調査票に記入してもらい、分析した。

3. 実証事業の成果及び地域への展開…………… 55

(1) 実証事業の成果のまとめ…………… 55

講習会を、自治体と、その地域に密着しているシニアネット団体等（運営協力団体）とが連携して、計画どおりに実施した。当初の講習会の実施目的及び目標は達成した。

(2) 実証を通じて得た成果の他地域への展開…………… 59

高齢者がICTを活用して社会参画を行った事例、ICTリテラシー向上のメリットや効果的かつ効率的な講習会実施に関する事項、「高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会」の開催を可能とするための講習会の進め方や留意点を冊子に取りまとめて、全国の都道府県及び市区町村に配布した。

- 付録 1 利用機器の仕様(i P a d) (A n d r o i d)
- 付録 2 講師用研修教材(i P a d)
- 付録 3 講師用研修教材(A n d r o i d)
- 付録 4 受講者用研修教材(i P a d)
- 付録 5 受講者用研修教材(A n d r o i d)
- 付録 6 受講者募集の広報資料等
- 付録 7 各地域での講習会の実施概要
- 付録 8 成果発表会の受講者の成果発表内容
- 付録 9 受講者用アンケートの雛形及びアンケート集計結果
- 付録 1 0 講師用アンケートの雛形及びアンケート集計結果
- 付録 1 1 I C Tサポーター用アンケートの雛形及びアンケート集計結果

1. 実証事業の概要

我が国は、世界でも類を見ない超高齢社会に突入している。「平成26年版高齢社会白書（内閣府）」によると、65歳以上の高齢者は、総人口（平成25年度時点で1億2,750万人）の25.1%（前年度24.1%）にも達し、今後も増加傾向にあるのに対し、生産年齢人口（15歳～64歳）は、総人口の62.1%（前年度62.9%）と、平成7年をピークに年々減少を続けている。また、高齢者のいる世帯は、全世帯（平成24年時点で4,817万世帯）の43.4%を占め、このうちの53.6%が高齢者の単独世帯又は夫婦のみの世帯である。今後、高齢者の社会的孤立や孤独等の問題が深刻化すると予想される。このため、我が国では、高齢者を社会の活動に取り込むことが重要である。

一方、「ICT超高齢社会構想会議報告書；平成25年5月（総務省）」によると、50歳を境に、短期記憶能力は急激に衰えるが、日常問題解決能力や言語能力は、経験や知識の習得によってむしろ向上すると報告されている。また、意識の面でも、社会参画への意欲が非常に高まっている旨、報告されている。こうした中、コミュニケーション活性化のためのツールとして情報通信技術（以下「ICT¹」という。）の有効性が見直され、また、日常生活においてもICTの利活用を前提としたサービスが一般的になっている。しかし、このような中、高齢者のICT利用率は他の世代に比べて低く、また、ICTリテラシー²が不十分な傾向があり、ICT社会から取り残されるおそれがある。これを回避するためには、高齢者が積極的にICTを活用した情報の発信及び交流を通じて、高齢者の新たなコミュニティ形成や就労、起業、ボランティア活動、地域課題の解決に向けた取組等社会参画を実施することが有効で、そのためには、高齢者のICTリテラシーを向上させることが必須である。そこで、ICTの学び場を創設するとともに、情報取得から情報の発信及び交流に至る個々のニーズに応じた多様なコミュニティ及び社会参画が可能となる環境を整備し、高齢者の取組みを後押しする必要がある。

これらのことを踏まえ、「ICT利活用による高齢者の社会参画促進に向けた実証」事業（以下「本実証事業」という。）は、一般財団法人ニューメディア開発協会（以下「当協会」という。）が十数年に亘るシニアのための養成講習³の運営経験を通じて得た、

- ・養成講習の運営に係るノウハウ（利用機器等の手配、受講者の募集等）

¹ ICTとは、Information and Communication Technology の略称であり、コンピュータやネットワークに関連する諸分野における技術・産業・設備・サービスなどの総称をいう。

² ICTリテラシーとは、単なるICTの活用・操作能力のみならず、メディアの特性を理解する能力、メディアにおける送り手の意図を読み解く能力、メディアを通じたコミュニケーション能力までを含む概念をいう。

³ 一般財団法人ニューメディア開発協会は、平成12年に「シニア情報生活アドバイザー制度」を立ち上げ、シニア向けのパソコンやネットワークに関する基本的な知識と技能（技術力）、学習支援のための基本的な知識と技能（支援能力）、自分の趣味や関心を活かした楽しい情報生活を創造する能力（活用能力）を伸ばすことを目的とした養成講習を全国から募った養成講習実施団体（140団体以上）の協力を得て運営している。この養成講習は、講師もシニア、かつ、受講者もシニアである「シニアによるシニアのための講習」である。

- ・養成講習の講習内容に係るノウハウ（シニアのためのカリキュラム、研修教材等）
- ・養成講習の講習方法に係るノウハウ（シニアによるシニアのための講習）

等のノウハウを活かすとともに、高齢者向けのICT講習会の講師経験のあるシニアボランティアの協力、地域に密着してICT講習会の開催等の活動を行っているシニアネット団体（NPO法人）等と連携により、実施された。

本実証事業の「高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会」（以下「本講習会」という。）は、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（以下「SNS」という。）等に関する講義をはじめ、それを利用したコミュニティ形成、ICTを活用したボランティア活動等地域社会への参画につなげる内容の講習会である。

なお、本実証事業を通じて得た成果を広く他の地域へと展開するに当たり、

- ・ICTリテラシーを向上させることの意義
- ・地域において効果的かつ継続的に、本講習会の開催を可能とするための実施方法に関するポイント
- ・これを普及展開するための方策等

を『「高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会」に関する手引書』に取りまとめ、全国の都道府県及び市区町村に配布した。

今後、各自治体による本実証事業の成果を活用した講習会を通じ、高齢者のICTリテラシーが向上され、ICTを利活用した積極的な社会参画につながることを期待する。

2. 実証事業の内容

2.1 講習会の実施計画等

(1) 有識者検討委員会の運営

当協会は、本実証事業の目的である「ICT利活用による高齢者の社会参画」を実現するため、ICTリテラシー等に関する有識者6人（表2.1-1参照）で構成する「有識者検討委員会（以下「委員会」という。）」を組成し、委員会の事務局として、委員会の運営を努めた。なお、委員会構成員の役割は、高齢者のICTリテラシーを向上させ、コミュニティで活動できる社会環境を実現するための効果的な実証施策を検討するために、高齢者のICTリテラシーの向上に資する講習会の実施、運営及び教材、その他、本実証事業の遂行に必要な事項に関する調査、検討、助言等を行うことである。

表2.1-1 有識者検討委員会の構成員

	役割	氏名	団体名・所属
1	委員長	袖井 孝子	お茶の水女子大学 名誉教授 (一般社団法人 シニア社会学会 会長)
2	副委員長	吉田 正弘	NPO法人 仙台シニアネットクラブ 理事長
3	委員	生部 圭助	NPO法人 自立化支援ネットワーク 理事長
4	委員	山根 明	NPO法人 シニアSOHO世田谷 代表理事
5	委員	大熊 勇雄	NPO法人 シニアSOHO横浜・神奈川 理事
6	委員	斎藤 富士夫	NPO法人 湖南ネットしが 理事長

委員会は、表2.1-2に示す計5回開催した。委員会の開催に当たっては、総務省がオブザーバとして参加した。

表2.1-2 有識者検討委員会の開催日及び主な議事内容

回数	開催日	主な議事内容
第1回	平成26年 8月20日	・本実証事業の目標、進め方全体に関する審議 (ICTリテラシー向上に係る目標等の設定)
第2回	平成26年 9月17日	・本実証事業の詳細実施計画に関する審議 (講習会実施計画書の確認)
第3回	平成26年11月19日	・講習会(前半グループ)の実施内容の確認及び 改善すべき点についての審議
第4回	平成27年 3月13日	・講習会(後半グループ)の実施内容の確認及び 成果発表会の発表内容等の審議
第5回	平成27年 3月24日	・本実証事業全体の成果内容の確認及び 今後の普及等に関する審議

a) 第1回有識者検討委員会

最初の委員会であることから、委員長及び副委員長を選定し、本実証事業のために組成した委員会の設置要綱案を審議し、委員会構成員全員における認識の一致を図った。委員会の設置要綱を図2.1-1に示す。

次に、本実証事業の事業概要、スケジュール等を含め、本実証事業の目標、進め方を審議した。さらに、委員会の開催時期及び主な議事内容等を決定した。なお、決定した事業スケジュールは、図2.1-3のとおりである。

また、本実証事業の目的である「ICT利活用による高齢者の社会参画」を促進するために、高齢者に期待されるICTリテラシーの能力、ICTリテラシーを身に付けた高齢者に期待される役割・活動等の目標について審議した。

「ICT利活用による高齢者の社会参画促進に向けた実証」事業における 有識者検討委員会 設置要綱	
	一般財団法人ニューメディア開発協会
(目的)	
第1条	この要綱は、総務省から受託した「ICT利活用による高齢者の社会参画促進に向けた実証」に関する請負事業において、高齢者のICTリテラシーを向上させ、コミュニティで活動できる社会環境を実現するための効果的な実証施策を検討することを目的として、一般財団法人ニューメディア開発協会（以下「協会」という。）内に設置する「有識者検討委員会」（以下「委員会」という。）について必要な事項を定める。
(業務)	
第2条	委員会は、前条の目的を達成するため、次に挙げる事項に関して、調査、検討、助言等を行う。 (1) 高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会の実施に関すること (2) 高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会の運営に関すること (3) 高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会の教材に関すること (4) その他、本事業の遂行に必要な事項に関すること
(組織)	
第3条	委員会は、10名以内の委員をもって構成する。 2 委員は、次に掲げる者のうちから協会理事長が委嘱する。 (1) 高齢者に対するICT教育に関する学識経験を有する者 (2) 高齢者に対するICT教育について、知識及び経験を有する者 (3) その他、協会理事長が本業務遂行に必要であると認める者 3 委員の任期は、平成26年8月8日から平成27年3月31日までとする。
(委員長等)	
第4条	委員会には、委員長を1名置き、副委員長を若干名置くことができる。 2 委員長及び副委員長は、委員の互選により決定する。 3 委員長は、委員会を代表し、委員会の議長となる。 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
(委員会)	
第5条	委員会は、協会が招集する。 2 委員会には、専門の事項について意見を聞くために、必要に応じオブザーバを参加させることができる。
(事務局)	
第6条	協会に事務局を置き、委員会の庶務を担当する。
(補則)	
第7条	この要綱に定められるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。
附 則	この要綱は、平成26年8月20日から施行する。
注)	「ICTリテラシー」とは、単なるICT（情報通信技術）の活用・操作能力のみならず、メディアの特性を理解する能力、メディアにおける送り手の意図を読み解く能力、メディアを通じたコミュニケーション能力までを含む概念をいう。

図2.1-1 有識者検討委員会の設置要綱

b) 第2回有識者検討委員会

平成26年9月8日に、総務省が決定した「ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト」の協力団体（11地域の自治体）を前半グループ（5地域）と後半グループ（6地域）に分け、本講習会の実施に係る詳細実施計画について審議した。

また、本講習会を実施するに当たっての受講者の募集用チラシや、本講習会で使用する研修教材及び講習会終了後に受講者等に行うアンケート項目について審議した。

c) 第3回有識者検討委員会

後半グループの自治体の講習会が開始される前に、前半グループで実施した講習会の実施内容等を評価し、後半グループの講習会の実施にフィードバックするため、講習会の研修教材の見直しを含め、改善すべき点について審議した。

d) 第4回有識者検討委員会

後半グループの自治体における講習会が終了した後、後半グループの講習会の実施内容等を評価し、講習会を実施した11地域の自治体の代表者による成果発表会内容等について審議した。

e) 第5回有識者検討委員会

本実証事業全体の成果・内容を評価し、高齢者のICTリテラシーを向上させるための講習会の在り方や実施方法、本実証事業の成果を全国の都道府県及び地区町村に普及展開させるための施策について審議した。

(2) 講習会の実施計画の立案

① ICTリテラシー向上に係る目標等の設定

高齢者の社会参画を促進するためには、高齢者に期待されるICTリテラシーの能力、地域においてICTリテラシーを身に付けた高齢者に期待される役割、活動等の目標を明確化し、その目標に向かって、高齢者にとって有効と考えられる講習会の実施方法を考える必要がある。

そこで、平成23年8月から翌年2月にかけてOECD（経済協力開発機構）の加盟国で実施された「国際成人力調査⁴」の「ITを活用した問題解決能力」等の客観的指標を参照し、ICTリテラシー向上に係る目標等を設定した。

a) 「国際成人力調査」の「ITを活用した問題解決能力」等の客観的指標

国際成人力調査は、各国（参加国24カ国）の16歳から65歳までの成人を対象として、社会生活において成人に求められる能力のうち、「読解力」、「数的思考力」、「ITを活用した問題解決能力」の3分野のスキルの状況（習熟度）を把握し、これらスキルの習熟度が社会経済に及ぼす影響やスキルの向上に対する教育訓練制度の効果を検証し、各国の学校教育や職業訓練など、今後の人材育成政策の参考となる知見

⁴ 国際成人力調査（Programme for the International Assessment of Adult Competencies ; PIAAC）の調査結果は、OECD（経済協力開発機構）（<http://www.oecd.org/site/piaac/>）及び文部科学省（http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/others/1287165.htm）のホームページで公開されている。

を得ることを目的として実施された。「ITを活用した問題解決能力」の習熟度レベルを、表2.1-3に示す。

表2.1-3 「ITを活用した問題解決能力」の習熟度レベル

	習熟度レベル			
	レベル1 未満	レベル1	レベル2	レベル3
目標の設定	目標が明確に定義されている	目標の推論が可能である	目標を自分で設定する	目標を自分で設定する
使用するアプリケーション	汎用的なインタフェースを使用する	電子メールソフトやウェブブラウザなどの汎用的なアプリケーションの使用を要求する	汎用的なアプリケーションと専用のアプリケーションの両方の使用を要求する	汎用的なアプリケーションと専用のアプリケーションの両方の使用を要求する
問題解決に適用すべき基準	明確な基準は一つだけである	明確である	明確である	明確又は曖昧のいずれかである
アプリケーションやページの横断等のナビゲーションの要否	全く必要ない	殆ど又は全く必要ない	必要である	必要である
並べ替え機能等のツールの使用の要否	使用する機能は一つだけである	使用しなくても問題解決が可能である	必要である	必要である
ステップ及び操作	わずかなステップ	わずかなステップ、最小限の操作	複数のステップ及び操作	複数のステップ及び操作
進捗状況管理 ・適切な手順を用いているか ・解決に向けて進捗しているか	不要である	進捗状況管理はあまり必要ない	予想外の結果や行き詰まりが現れることがあり、進捗状況管理の必要性はやや高い	予想外の結果や行き詰まりが現れることが多く、進捗状況管理の必要性は高い
情報操作 ・情報の変換 ・情報の統合 ・合理的推論	カテゴリーに分類するための推論や合理的推論、情報の変換は必要ない	アイテムをカテゴリーごとに分類するなど、単純な形式の推論のみが求められる。情報を対比させたり統合したりする必要はない	一連の項目の関連性を評価し、余計なものを切り捨てなければならぬため、統合と合理的推論がある程度求められる	余計な情報を切り捨てるため、情報の関連性と信頼性を評価する必要性から統合と合理的推論が相当程度求められる

b) ICTリテラシー向上に係る目標値の設定

国際成人力調査のうち、「ITを活用した問題解決能力」の日本における年齢グループ別習熟度レベルの割合を表2.1-4に示す。

表2.1-4 日本における年齢グループ別習熟度レベルの割合

年齢グループ	日本における年齢グループ別習熟度レベルの割合 (%)				
	基本操作未満	レベル1未満	レベル1	レベル2	レベル3
16歳～24歳	12.1	5.9	21.9	35.7	10.2
25歳～34歳	10.0	3.5	19.5	37.7	16.0
35歳～44歳	14.1	5.2	21.0	33.6	11.0
45歳～54歳	21.2	10.6	23.9	22.0	4.8
55歳～65歳	40.9	11.5	14.1	8.6	1.3

「ITを活用した問題解決能力」の日本における年齢グループ別習熟度レベルの割合を鑑みると、基本操作未満である高齢者（65歳以上）の割合が多いものと推測される。本講習会では、ITを活用した問題解決能力の「習熟度レベル1」程度、つまり、「電子メールソフトやウェブブラウザなどの汎用的なアプリケーションを利用して、自分で必要な情報へのアクセスや情報交換を行い、問題解決する操作ができるレベル」をICTリテラシー向上に係る目標値とし、次のICTリテラシー能力の習得を目指した。

- i) 災害時等の場合に、自ら電子メールやテレビ電話等を使って情報発信ができる。
- ii) ウェブを使って、買い物や予約等の便利なICTサービスを楽しむことができる。
- iii) ICTスキルで、写真、書道、俳句、お絵かき、音楽等の趣味が深められる。
- iv) ICTを使用して社会参画ができる。

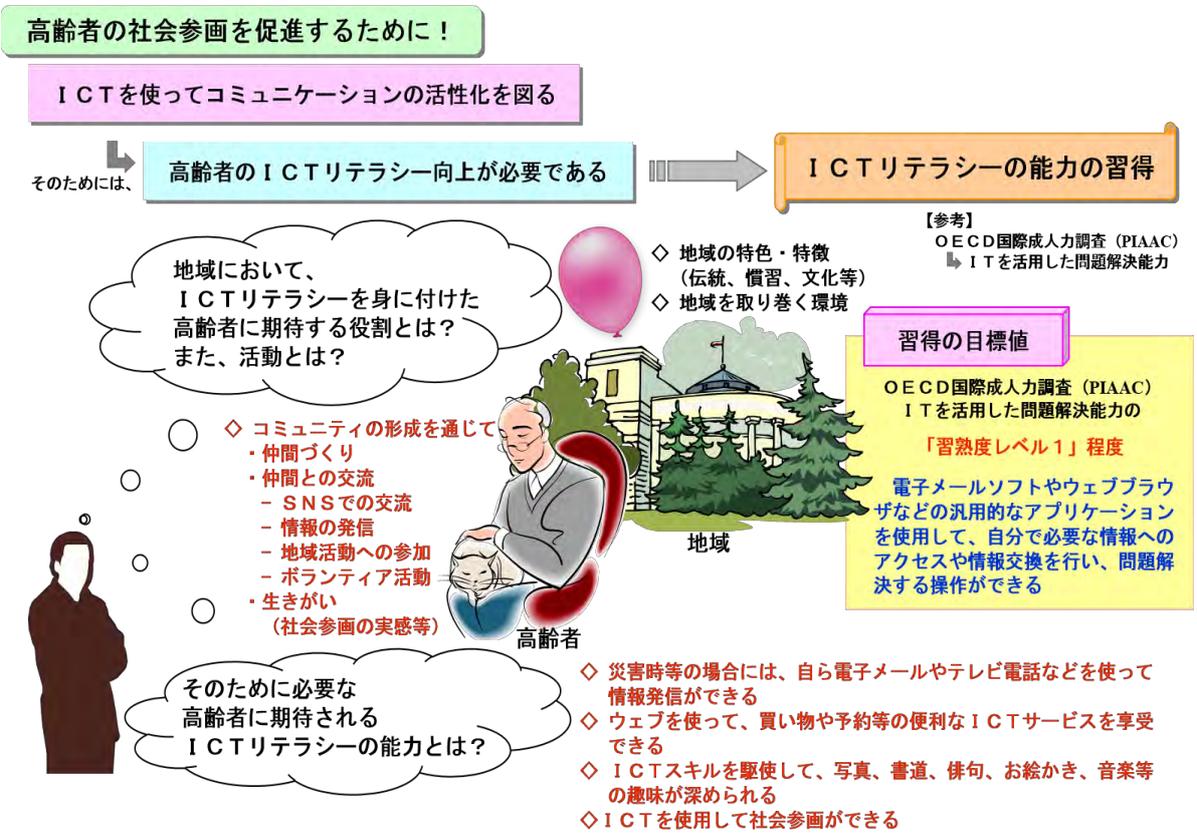


図2.1-2 ICTリテラシー向上に係る目標値の設定

② 講習会実施計画書の作成

本講習会を実施するに当たって、本講習会に関連して実施する作業を洗い出し、各作業の実施時期や具体的な内容等を実施計画書（以下「講習会実施計画書」という。）に取りまとめ、第2回有識者検討委員会に諮って決定した。講習会実施計画書の内容（主な作業項目及びその実施時期）を、図2.1-3に示す。

		平成26年										平成27年				
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
(1) 講習会実施計画書の作成等	① 有識者検討委員会の運営 (7) 組成(6名) (4) 実証施策案検討(5回)					目標等の設定	実施計画の承認				改善案確認				成果発表会	実施結果の報告
	② 講習会実施計画書の作成					実施計画書										
	③ ICTリテラシー向上に係る目標等の設定					目標等検討		9月初旬								
(2) 会場及び利用機器の選定等	① 会場の選定及び確保 (7) 前半グループ (4) 後半グループ															
	② 利用機器の選定及び配備															
(3) 教材の作成	① 標準カリキュラムの作成															
	② 講師用研修教材作成															
	③ 受講生用研修教材作成															
(4) 講師及びICT講師の配置等	① 講師の配置及び研修															
	② ICT講師の配置															
(5) 講習会の実施及び結果のとりまとめ	① 講習会実施の周知支援 (7) 前半グループ (4) 後半グループ															
	② 講習会リハーサルの実施															
	③ 講習会の実施 (7) 前半グループ (4) 後半グループ															
	④ 各自治体の受講者代表者による成果発表会の実施															
	⑤ ICTリテラシー育成リット、効果的・効率的講習方法等の調査															

図 2.1-3 講習会実施計画書

a) 講習会の実施計画

本講習会は、総務省の総合通信局又は総合通信事務所の11の管轄地域において講習会を開催することとし、この管轄地域で実際に本講習会を開催する市区町村（以下「自治体」という。）は、総務省が、「ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト」の協力団体の公募を行い、11自治体を決定した。

本講習会は、11自治体を前半グループと後半グループの二つのグループに分けて実施し、前半グループで実施した講習会の実証結果を踏まえて改善点を整理し、これを後半グループの講習会にフィードバックすることで、より有要な効果を得られるようにした。

また、各自治体の行政区域に存在する3か所の会場を本講習会の会場に選定し、住民の方々に広く講習会の受講ができる機会を提供し、地域の特色を満遍なく反映した実証結果が得られるよう配慮した。本講習会は、1か所当たり4コマを約1か月間で実施し、各自治体当たり合計約3か月間のスパンで講習を実施した。

各会場で行う講習は、1コマ3時間程度の講習を全4コマ、これを1コースとして、同じ内容の講習を2コース実施することにし、各コースともに、受講者数は15人を基本とした。つまり、各自治体は、3会場で6コースを実施し、11地域の総受講者数の目標を990人とした。なお、各会場で実施する2コースの講習は、原則として、土曜日及び日曜日に1コマずつ、毎週実施することを想定して実施計画を立案したが、各会場の事情等に応じて、日程を変更して実施できることとした。実施計画を立案した時点において想定していた本講習会の実施イメージを図2.1-4に示す。

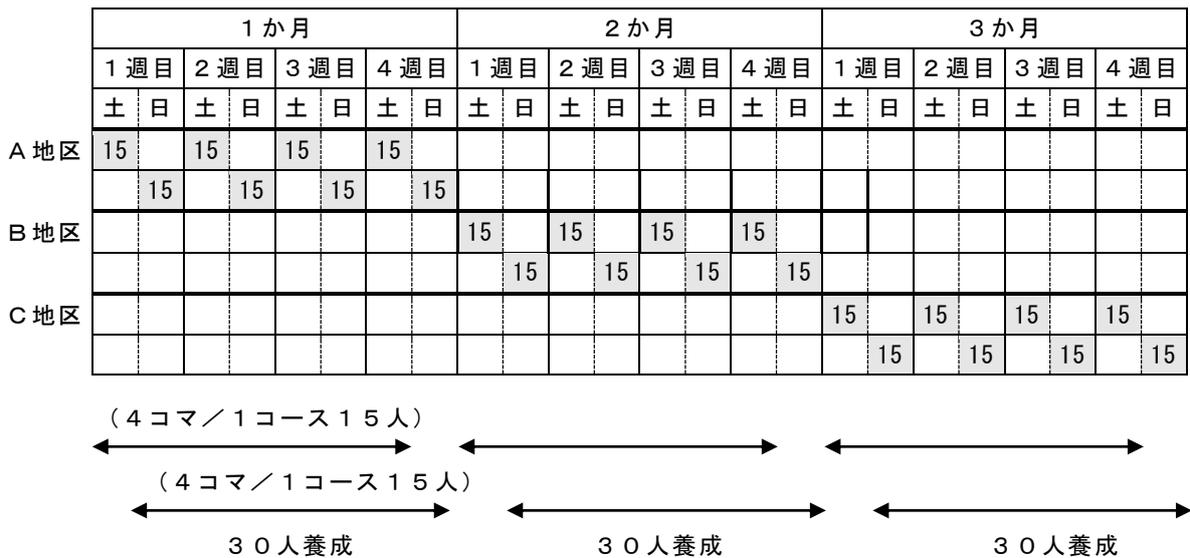


図 2.1-4 自治体における講習会の実施イメージ

実際の講習会の実施に当たっては、自治体によって、同日の午前及び午後1つのコースの2コマの講習を実施するケースや、同日の午前及び午後1つのコースの1コマの講習を実施するケースなどがあった。講習会の間隔も1週間置くケース、1コースを同一週で終えるケースもあった。

本講習会の実施に当たっては、講習会が問題なく実施できることを事前に確認するため、各自治体の最初の講習会を実施する前に、講師及びICTサポーター（講習会で講師をサポートする補助者）を全員集めて講習会のリハーサルを実施した。

また、本講習会に使用するタブレットは、本実証事業の実証結果として、特定のOSに依存した実証結果を導くことにならないように、一般的な普及状況を鑑み、iOSとAndroid OSの二つの異なるOSを選択した。なお、一つの自治体で使用するOSは、一つのOSに統一し、iOS（iPad）を使用する自治体と、Android OS（Androidタブレット）を使用する自治体とに分けて実施した。

b) 各地域における講習会実施計画

本講習会を実施する自治体は、総務省が、「ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト」の協力団体として、“市区町村内に、3か所以上のインターネット接続環境を整備した施設を提供できること”、“講習会の実施に関する広報支援を行うこと”等を条件に平成26年7月11日に公募を開始し、平成26年9月8日に11自治体を選定された。その後、選定された自治体と調整し、その地域に密着してICT講習会の開催等の活動をしているシニアネット団体等の中から本講習会に賛同し、運営に協力して頂ける団体（以下「運営協力団体」という。）を決定した。

最終的なスケジュールの決定に当たっては、自治体と運営協力団体と調整を図り、実施日時、実施場所を決定した。各地域における講習会実施計画の内容を表2.1-5、表2.1-6に示す。

表2.1-5 各地域における講習会実施計画

地域 (自治体)	運営協力団体	使用OS	開催時期
北海道 帯広市	特定非営利活動法人 とかちシニアネット	Android	後半
岩手県 一戸町	特定非営利活動法人 いわてシニアネット	Android	前半
栃木県 栃木市	特定非営利活動法人 栃木県シニアセンター	Android	前半
新潟県 新潟市	特定非営利活動法人 新潟県高度情報社会生活支援センター	Android	後半
福井県 坂井市	特定非営利活動法人 いきいきITクラブ	Android	後半
岐阜県 大垣市	グレートインフォメーション ネットワーク株式会社	iOS	前半
和歌山県 田辺市	特定非営利活動法人 つれもてネット南紀熊野	iOS	後半
山口県 光市	特定非営利活動法人 シニアネット光	iOS	前半
愛媛県 松山市	特定非営利活動法人 トータルサポート21	iOS	後半
鹿児島県 薩摩川内市	特定非営利活動法人 鹿児島ASC	iOS	前半
沖縄県 南城市	シニアネットNAHA	iOS	後半

表2.1-6 各地域における講習会実施計画の詳細（1）

北海道 帯広市					
講師向け研修講習	平成26年12月 8日～ 9日 (特定非営利活動法人 とかちシニアネット)				
講習会リハーサル	平成26年12月18日 (特定非営利活動法人 とかちシニアネット)				
第1会場 (南コミュニティーセンター)					受講者数
第1コース	第1コマ	第1コマ	平成26年12月18日(木)	午後	15人
		第2コマ	平成26年12月19日(金)	午後	15人
		第3コマ	平成26年12月20日(土)	午後	15人
		第4コマ	平成26年12月12日(月)	午後	15人
	第2コース	第1コマ	平成27年 1月12日(月)	午後	15人
		第2コマ	平成27年 1月14日(水)	午後	15人
		第3コマ	平成27年 1月15日(木)	午後	15人
		第4コマ	平成27年 1月16日(金)	午後	15人
第2会場 (特定非営利活動法人 とかちシニアネット)					受講者数
第3コース	第1コマ	第1コマ	平成27年 1月20日(火)	午後	15人
		第2コマ	平成27年 1月21日(水)	午後	15人
		第3コマ	平成27年 1月22日(木)	午後	15人
		第4コマ	平成27年 1月23日(金)	午後	15人
	第4コース	第1コマ	平成27年 2月 3日(火)	午後	15人
		第2コマ	平成27年 2月 4日(水)	午後	15人
		第3コマ	平成27年 2月 5日(木)	午後	15人
		第4コマ	平成27年 2月 6日(金)	午後	15人
第3会場 (森の里コミュニティーセンター)					受講者数
第5コース	第1コマ	第1コマ	平成27年 2月16日(月)	午後	14人
		第2コマ	平成27年 2月18日(水)	午後	15人
		第3コマ	平成27年 2月19日(木)	午後	14人
		第4コマ	平成27年 2月20日(金)	午後	14人
	第6コース	第1コマ	平成27年 2月23日(月)	午後	16人
		第2コマ	平成27年 2月25日(水)	午後	16人
		第3コマ	平成27年 2月26日(木)	午後	16人
		第4コマ	平成27年 2月27日(金)	午後	15人

表2.1-6 各地域における講習会実施計画の詳細（2）

岩手県 一戸町					
講師向け研修講習	平成26年 9月28日～29日 (特定非営利活動法人 いわてシニアネット)				
講習会リハーサル	平成26年10月 2日 (一戸町コミュニティセンター)				
第1会場	(一戸町コミュニティセンター)				受講者数
第1コース	第1コマ	平成26年10月 3日(金)	午前	8人	
	第2コマ	平成26年10月10日(金)	午前	8人	
	第3コマ	平成26年10月17日(金)	午前	6人	
	第4コマ	平成26年10月24日(金)	午前	5人	
	第2コース	第1コマ	平成26年10月 3日(金)	午後	9人
		第2コマ	平成26年10月10日(金)	午後	9人
		第3コマ	平成26年10月17日(金)	午後	7人
		第4コマ	平成26年10月24日(金)	午後	8人
第2会場	(烏海地区公民館)				受講者数
第3コース	第1コマ	平成26年10月11日(土)	午前	8人	
	第2コマ		午後	8人	
	第3コマ	平成26年10月18日(土)	午前	8人	
	第4コマ		午後	10人	
第4コース	第1コマ	平成26年11月23日(日)	午前	15人	
	第2コマ		午後	15人	
	第3コマ	平成26年11月30日(日)	午前	13人	
	第4コマ		午後	13人	
第3会場	(奥中山地区公民館)				受講者数
第5コース	第1コマ	平成26年11月 5日(水)	午前	12人	
	第2コマ	平成26年11月12日(水)	午前	11人	
	第3コマ	平成26年11月19日(水)	午前	10人	
	第4コマ	平成26年11月26日(水)	午前	8人	
第6コース	第1コマ	平成26年11月 5日(水)	午後	7人	
	第2コマ	平成26年11月12日(水)	午後	9人	
	第3コマ	平成26年11月19日(水)	午後	7人	
	第4コマ	平成26年11月26日(水)	午後	7人	

表2.1-6 各地域における講習会実施計画の詳細（3）

栃木県 栃木市					
講師向け研修講習	平成26年 9月19日, 23日 (特定非営利活動法人 栃木県シニアセンター)				
講習会リハーサル	平成26年 9月24日 (特定非営利活動法人 栃木県シニアセンター)				
第1会場 (栃木保険福祉センター)					受講者数
第1コース	第1コマ	平成26年 9月26日(金)	午前	14人	
			午後	13人	
	第2コマ	平成26年10月 3日(金)	午前	10人	
			午後	10人	
	第2コース	第1コマ	平成26年10月10日(金)	午前	16人
		第2コマ		午後	17人
		第3コマ	平成26年10月16日(木)	午前	15人
		第4コマ		午後	14人
第2会場 (栃木第4地区コミュニティセンター)					受講者数
第3コース	第1コマ	平成26年10月13日(月)	午前	16人	
	第2コマ		午後	16人	
	第3コマ	平成26年10月18日(土)	午前	14人	
	第4コマ		午後	14人	
第4コース	第1コマ	平成26年10月19日(日)	午前	16人	
	第2コマ		午後	16人	
	第3コマ	平成26年10月21日(火)	午前	16人	
	第4コマ		午後	16人	
第3会場 (栃木市役所)					受講者数
第5コース	第1コマ	平成26年11月12日(水)	午前	17人	
	第2コマ		午後	17人	
	第3コマ	平成26年11月13日(木)	午前	16人	
	第4コマ		午後	17人	
第6コース	第1コマ	平成26年11月21日(金)	午前	11人	
	第2コマ		午後	11人	
	第3コマ	平成26年11月22日(土)	午前	11人	
	第4コマ		午後	12人	

表2.1-6 各地域における講習会実施計画の詳細（4）

新潟県 新潟市					
講師向け研修講習	平成26年11月18日～19日 (特定非営利活動法人 新潟県高度情報社会生活支援センター)				
講習会リハーサル	平成26年11月28日 (特定非営利活動法人 新潟県高度情報社会生活支援センター)				
第1会場	(特定非営利活動法人 新潟県高度情報社会生活支援センター)				受講者数
第1コース	第1コマ	第1コマ	平成26年11月29日(土)	午前	15人
		第2コマ	平成26年12月6日(土)	午前	15人
		第3コマ	平成26年12月13日(土)	午前	14人
		第4コマ	平成26年12月20日(土)	午前	13人
	第2コース	第1コマ	平成26年11月29日(土)	午後	14人
		第2コマ	平成26年12月6日(土)	午後	14人
		第3コマ	平成26年12月13日(土)	午後	14人
		第4コマ	平成26年12月20日(土)	午後	11人
第2会場	(新潟市江南文化会館)				受講者数
第3コース	第1コマ	第1コマ	平成27年1月6日(火)	午前	15人
		第2コマ	平成27年1月13日(火)	午前	14人
		第3コマ	平成27年1月20日(火)	午前	15人
		第4コマ	平成27年1月27日(火)	午前	15人
	第4コース	第1コマ	平成27年1月10日(土)	午前	15人
		第2コマ	平成27年1月17日(土)	午前	15人
		第3コマ	平成27年1月24日(土)	午前	15人
		第4コマ	平成27年1月31日(土)	午前	15人
第3会場	(新潟市卸センター [NOCプラザ])				受講者数
第5コース	第1コマ	第1コマ	平成27年2月7日(土)	午前	15人
		第2コマ	平成27年2月14日(土)	午前	15人
		第3コマ	平成27年2月21日(土)	午前	14人
		第4コマ	平成27年2月28日(土)	午前	14人
	第6コース	第1コマ	平成27年2月7日(土)	午後	15人
		第2コマ	平成27年2月14日(土)	午後	15人
		第3コマ	平成27年2月21日(土)	午後	14人
		第4コマ	平成27年2月28日(土)	午後	15人

表2.1-6 各地域における講習会実施計画の詳細（5）

福井県 坂井市					
講師向け研修講習	平成26年12月 1日～ 2日 (高椋公民館)				
講習会リハーサル	平成26年12月 6日 (三國図書館) 平成27年 2月 3日 (坂井図書館) 平成27年 2月18日 (ハートピア春江)				
第1会場 (三國図書館)					受講者数
第1コース	第1コマ	第1コマ	平成26年12月10日(水)	午前	15人
		第2コマ	平成26年12月12日(金)	午前	15人
		第3コマ	平成26年12月17日(水)	午前	14人
		第4コマ	平成26年12月19日(金)	午前	13人
	第2コース	第1コマ	平成26年12月10日(水)	午後	15人
		第2コマ	平成26年12月12日(金)	午後	15人
		第3コマ	平成26年12月17日(水)	午後	15人
		第4コマ	平成26年12月19日(金)	午後	14人
第2会場 (高椋公民館)					受講者数
第3コース	第1コマ	第1コマ	平成27年 1月13日(火)	午前	17人
		第2コマ	平成27年 1月15日(木)	午前	17人
		第3コマ	平成27年 1月20日(火)	午前	17人
		第4コマ	平成27年 1月22日(木)	午前	15人
	第4コース	第1コマ	平成27年 1月13日(火)	午後	17人
		第2コマ	平成27年 1月15日(木)	午後	16人
		第3コマ	平成27年 1月20日(火)	午後	17人
		第4コマ	平成27年 1月22日(木)	午後	15人
第3会場 (坂井図書館)					受講者数
第5コース	第1コマ	平成27年 2月 4日(水)	午後	16人	
	第2コマ	平成27年 2月 6日(金)	午後	17人	
	第3コマ	平成27年 2月11日(水)	午後	17人	
	第4コマ	平成27年 2月13日(金)	午後	16人	
第4会場 (ハートピア春江)					受講者数
第6コース	第1コマ	平成27年 2月18日(水)	午後	17人	
	第2コマ	平成27年 2月20日(金)	午後	17人	
	第3コマ	平成27年 2月25日(水)	午後	17人	
	第4コマ	平成27年 2月27日(金)	午後	17人	

表2.1-6 各地域における講習会実施計画の詳細（6）

岐阜県 大垣市					
講師向け研修講習	平成26年 9月23日～24日 (情報工房)				
講習会リハーサル	平成26年 9月29日 (情報工房)				
第1会場 (情報工房)					受講者数
第1コース	第1コマ	平成26年 9月30日(火)	午前	16人	
	第2コマ	平成26年10月 3日(金)	午前	16人	
	第3コマ	平成26年10月 7日(火)	午前	16人	
	第4コマ	平成26年10月 9日(木)	午前	16人	
	第2コース	第1コマ	平成26年10月18日(土)	午後	18人
		第2コマ	平成26年10月25日(土)	午後	17人
		第3コマ	平成26年11月 1日(土)	午後	18人
		第4コマ	平成26年11月 8日(土)	午後	18人
第2会場 (日進地区センター)					受講者数
第3コース	第1コマ	平成26年10月16日(木)	午前	17人	
	第2コマ	平成26年10月23日(木)	午前	13人	
	第3コマ	平成26年10月30日(木)	午前	14人	
	第4コマ	平成26年11月 6日(木)	午前	14人	
第4コース	第1コマ	平成26年10月16日(木)	午後	15人	
	第2コマ	平成26年10月23日(木)	午後	17人	
	第3コマ	平成26年10月30日(木)	午後	17人	
	第4コマ	平成26年11月 6日(木)	午後	15人	
第3会場 (綾里地区センター)					受講者数
第5コース	第1コマ	平成26年10月10日(金)	午前	16人	
	第2コマ	平成26年10月17日(金)	午前	17人	
	第3コマ	平成26年10月24日(金)	午前	14人	
	第4コマ	平成26年10月31日(金)	午前	15人	
第4会場 (総合福祉会館)					受講者数
第6コース	第1コマ	平成26年11月 7日(金)	午前	18人	
	第2コマ	平成26年11月14日(金)	午前	17人	
	第3コマ	平成26年11月21日(金)	午前	13人	
	第4コマ	平成26年11月28日(金)	午前	13人	

表2.1-6 各地域における講習会実施計画の詳細（7）

和歌山県 田辺市					
講師向け研修講習	平成26年11月16日～17日 (かんぼの宿 白浜)				
講習会リハーサル	平成26年11月27日 (万呂公民館)				
第1会場 (万呂公民館)					受講者数
第1コース	第1コマ	第1コマ	平成26年12月1日(月)	午後	14人
		第2コマ	平成26年12月8日(月)	午後	12人
		第3コマ	平成26年12月15日(月)	午後	12人
		第4コマ	平成26年12月22日(月)	午後	12人
	第2コース	第1コマ	平成26年12月5日(金)	午後	15人
		第2コマ	平成26年12月12日(金)	午後	15人
		第3コマ	平成26年12月19日(金)	午後	14人
		第4コマ	平成26年12月26日(金)	午後	15人
第2会場 (芳養公民館)					受講者数
第3コース	第1コマ	第1コマ	平成27年1月5日(月)	午後	13人
		第2コマ	平成27年1月14日(水)	午後	13人
		第3コマ	平成27年1月19日(月)	午後	12人
		第4コマ	平成27年1月26日(月)	午後	11人
	第4コース	第1コマ	平成27年1月8日(木)	午後	16人
		第2コマ	平成27年1月15日(木)	午後	13人
		第3コマ	平成27年1月22日(木)	午後	14人
		第4コマ	平成27年1月29日(木)	午後	15人
第3会場 (ひがし公民館)					受講者数
第5コース	第1コマ	第1コマ	平成27年2月4日(水)	午後	18人
		第2コマ	平成27年2月10日(火)	午後	20人
		第3コマ	平成27年2月18日(水)	午後	17人
		第4コマ	平成27年2月25日(水)	午後	16人
	第6コース	第1コマ	平成27年2月6日(金)	午後	16人
		第2コマ	平成27年2月13日(金)	午後	16人
		第3コマ	平成27年2月20日(金)	午後	11人
		第4コマ	平成27年2月27日(金)	午後	15人

表2.1-6 各地域における講習会実施計画の詳細（8）

山口県 光市					
講師向け研修講習	平成26年 9月18日～19日 (光市地域づくり支援センター)				
講習会リハーサル	平成26年10月 7日 (光市地域づくり支援センター)				
第1会場	(光市地域づくり支援センター)				受講者数
第1コース	第1コマ	平成26年10月 8日(水)	午前	14人	
	第2コマ	平成26年10月15日(水)	午前	13人	
	第3コマ	平成26年10月22日(水)	午前	13人	
	第4コマ	平成26年10月29日(水)	午前	12人	
	第2コース	第1コマ	平成26年10月 9日(木)	午前	13人
		第2コマ	平成26年10月16日(木)	午前	13人
		第3コマ	平成26年10月23日(木)	午前	13人
		第4コマ	平成26年10月30日(木)	午前	11人
第2会場	(光市生涯学習センター)				受講者数
第3コース	第1コマ	平成26年11月 5日(水)	午前	15人	
	第2コマ	平成26年11月12日(水)	午前	15人	
	第3コマ	平成26年11月19日(水)	午前	15人	
	第4コマ	平成26年11月26日(水)	午前	14人	
第4コース	第1コマ	平成26年11月 6日(木)	午前	15人	
	第2コマ	平成26年11月13日(木)	午前	15人	
	第3コマ	平成26年11月20日(木)	午前	15人	
	第4コマ	平成26年11月27日(木)	午前	15人	
第3会場	(あいぱーく光)				受講者数
第5コース	第1コマ	平成26年12月 3日(水)	午前	15人	
	第2コマ	平成26年12月10日(水)	午前	15人	
	第3コマ	平成26年12月17日(水)	午前	15人	
	第4コマ	平成26年12月24日(水)	午前	15人	
第6コース	第1コマ	平成26年12月 4日(木)	午前	15人	
	第2コマ	平成26年12月11日(木)	午前	15人	
	第3コマ	平成26年12月18日(木)	午後	15人	
	第4コマ	平成26年12月25日(木)	午前	15人	

表2.1-6 各地域における講習会実施計画の詳細（9）

愛媛県 松山市					
講師向け研修講習	平成26年12月 5日～ 6日 (松山市総合福祉センター)				
講習会リハーサル	平成26年12月10日 (松山市総合福祉センター)				
第1会場 (松山市総合福祉センター)					受講者数
第1コース	第1コマ	平成26年12月11日(木)	午前	15人	
		平成26年12月15日(月)	午前	15人	
		平成26年12月18日(木)	午前	14人	
		平成26年12月22日(月)	午前	14人	
	第2コマ	平成26年12月11日(木)	午後	15人	
		平成26年12月15日(月)	午後	15人	
		平成26年12月18日(木)	午後	14人	
		平成26年12月22日(月)	午後	15人	
第2会場 (松山市鷹子老人福祉センター)					受講者数
第3コース	第1コマ	平成27年 1月16日(金)	午前	14人	
		平成27年 1月20日(火)	午前	14人	
		平成27年 1月26日(月)	午前	13人	
		平成27年 1月28日(水)	午前	14人	
	第2コマ	平成27年 1月16日(金)	午後	14人	
		平成27年 1月20日(火)	午後	14人	
		平成27年 1月26日(月)	午後	16人	
		平成27年 1月28日(水)	午後	15人	
第3会場 (北条社会福祉センター)					受講者数
第5コース	第1コマ	平成27年 2月 5日(木)	午前	15人	
		平成27年 2月 9日(月)	午前	15人	
		平成27年 2月12日(木)	午前	17人	
		平成27年 2月16日(月)	午前	15人	
	第2コマ	平成27年 2月 5日(木)	午後	15人	
		平成27年 2月 9日(月)	午後	13人	
		平成27年 2月12日(木)	午後	13人	
		平成27年 2月16日(月)	午後	13人	

表2.1-6 各地域における講習会実施計画の詳細（10）

鹿児島県 薩摩川内市					
講師向け研修講習	平成26年10月 1日～ 2日 (特定非営利活動法人 鹿児島ASC)				
講習会リハーサル	平成26年10月12日(台風で、10月13日に変更) (薩摩川内市国際交流センター)				
第1会場	(薩摩川内市国際交流センター)				受講者数
第1コース	第1コマ	平成26年10月20日(月)	午前	13人	
		平成26年10月27日(月)	午前	14人	
		平成26年11月10日(月)	午前	13人	
		平成26年11月24日(月)	午前	13人	
	第2コマ	平成26年10月20日(月)	午後	15人	
		平成26年10月27日(月)	午後	14人	
		平成26年11月10日(月)	午後	15人	
		平成26年11月24日(月)	午後	14人	
	第3コマ	平成26年10月14日(火)	午後	14人	
		平成26年10月21日(火)	午後	14人	
		平成26年11月 4日(火)	午後	12人	
		平成26年11月11日(火)	午後	13人	
第2会場	(薩摩川内市桶脇公民館)				受講者数
第4コース	第1コマ	平成26年10月14日(火)	午前	14人	
	第2コマ	平成26年10月21日(火)	午前	14人	
	第3コマ	平成26年11月 4日(火)	午前	13人	
	第4コマ	平成26年11月11日(火)	午前	9人	
第3会場	(大村地区コミュニティセンター)				受講者数
第5コース	第1コマ	平成26年11月17日(月)	午後	15人	
	第2コマ	平成26年11月25日(火)	午後	14人	
	第3コマ	平成26年11月27日(木)	午後	15人	
	第4コマ	平成26年12月 1日(月)	午後	13人	
第4会場	(長浜地区コミュニティセンター) [甕島]				受講者数
第6コース	第1コマ	平成26年10月22日(水)	午後	17人	
	第2コマ	平成26年10月23日(木)	午後	16人	
	第3コマ	平成26年11月 1日(土)	午後	17人	
	第4コマ	平成26年11月 2日(日)	午後	17人	

備考 第1コース及び第2コースは、平成26年10月13日から開始する予定であったが、台風により、開始日を10月20日に変更した。

表2.1-6 各地域における講習会実施計画の詳細（11）

沖縄県 南城市						
講師向け研修講習	平成26年11月25日～26日 (てんぷす那覇)					
講習会リハーサル	平成26年12月 8日 (文化センター)					
第1会場 (文化センター)					受講者数	
第1コース	第1コマ	第1コマ	平成26年12月 9日(火)	午前	16人	
		第2コマ	平成26年12月11日(木)	午前	16人	
		第3コマ	平成26年12月16日(火)	午前	16人	
		第4コマ	平成26年12月18日(木)	午前	14人	
	第2コース	第1コマ	第1コマ	平成26年12月 9日(火)	午後	16人
			第2コマ	平成26年12月11日(木)	午後	16人
			第3コマ	平成26年12月16日(火)	午後	16人
			第4コマ	平成26年12月18日(木)	午後	14人
第2会場 (玉城中央公民館)					受講者数	
第3コース	第1コマ	第1コマ	平成27年 1月13日(火)	午前	17人	
		第2コマ	平成27年 1月15日(木)	午前	16人	
		第3コマ	平成27年 1月20日(火)	午前	14人	
		第4コマ	平成27年 1月22日(木)	午前	12人	
	第4コース	第1コマ	第1コマ	平成27年 1月13日(火)	午後	14人
			第2コマ	平成27年 1月15日(木)	午後	13人
			第3コマ	平成27年 1月20日(火)	午後	13人
			第4コマ	平成27年 1月22日(木)	午後	10人
第3会場 (大里農村環境改善センター)					受講者数	
第5コース	第1コマ	第1コマ	平成27年 2月 2日(月)	午前	16人	
		第2コマ	平成27年 2月 5日(木)	午前	14人	
		第3コマ	平成27年 2月 9日(月)	午前	14人	
		第4コマ	平成27年 2月12日(木)	午前	15人	
	第6コース	第1コマ	第1コマ	平成27年 2月 2日(月)	午後	16人
			第2コマ	平成27年 2月 5日(木)	午後	16人
			第3コマ	平成27年 2月 9日(月)	午後	15人
			第4コマ	平成27年 2月12日(木)	午後	15人

③ 標準カリキュラムの作成

本講習会では、地域による講習内容のバラツキが生じないように、標準カリキュラム（案）を作成し、第1回有識者検討委員会に諮り決定した。

「標準カリキュラム」を表2.1-7に示す。

標準カリキュラムは、実際のインターネットサービスによる情報収集などの体験学習を含め、SNSなどのウェブ上に存在するコミュニティへの参加、新たなコミュニティの立ち上げ、オフラインでのコミュニティ⁵形成のために必要なフィールドワークの実施による身近な課題発見等のプロセス、成果発表会を盛り込んだ。

標準カリキュラムの作成に当たっては、単にICTのスキル習得に留まらず、趣味等を通じた交流や就労、起業、地域の課題解決への取組など、高齢者は十分に活躍できる戦力であることを気付かせ、行動の動機付けを行うとともに、講習を通じて自らが社会に貢献できる実感が得られる内容とした。

さらに、後半グループの講習会で使用する標準カリキュラムには、前半グループの実施状況を踏まえ、SNSの体験実習（タブレットのカメラ機能を使って撮影した写真等を共有する操作）と、ICTリテラシーに関する理解状況を確認するための「スキルチェックテスト」及び「確認テスト」⁶に関する内容を追加した。

表2.1-7 標準カリキュラム

回数	項目	内容
第1日目 (1コマ目)	開会及び オリエンテーション	◇開会式（開会挨拶、講師紹介等） ◇オリエンテーション ・講習会の目的に関する説明及び諸注意
	～学んで体験～ 第1講義 ICT活用事例紹介	◇講義のねらい タブレットが高齢者にとって有用なICT機器であり、情報の取得やコミュニティへの参加を容易にする。このため、高齢者であっても社会参画の機会が十分にあることを理解させる。 ◇講義内容 ・ICTを活用すると便利な事例の紹介 ・ICTを活用による身近な社会参画の事例紹介 ・パソコン、タブレットの使用体験の発表 (受講者の自己紹介を兼ねて)
	第2講義 基本操作	◇講義のねらい 電源のオン・オフ、画面へのタッチ方法等、基本的な入力の仕方を習得させる。 ◇講義内容 ・タブレットの基礎操作（電源オン・オフ等） ・いろいろな設定の方法（音量調整等） ・ウィンドウタッチの操作 ・キーボードの操作 ・音声入力の操作

⁵ オフラインでのコミュニティとは、インターネット等のネットワークを介する（オンライン）のではなく、直接集まって（オフライン）親睦等を図ることをいう。

⁶ 「スキルチェックテスト」及び「確認テスト」は、総務省の平成25年度「ICTリテラシー育成のためのモデルシステムに関する調査研究」において実施したものである。
(http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/media_literacy.html)

回数	項目	内容
第2日目 (2コマ目)	～便利に使う～ 第3講義 インターネットの利用	◇講義のねらい インターネットにアクセスすれば、多くの情報が容易に得られ、メールやテレビ電話等が安否確認や高齢者自身の孤立防止に有用であり、また、オンラインショッピング等の利用により生活の利便性が向上することを理解させる。 ◇講義内容 ・インターネットでできることの紹介 ・インターネット接続の準備 ・電子メールの利用方法 ・テレビ電話の利用方法 ・ウェブの利用 ・インターネット利用に当たっての留意事項
第3日目 (3コマ目)	～趣味で活用～ 第4講義 楽しい使い方	◇講義のねらい Facebook等SNSへの発信、趣味によるサークル活動等を通じて、社会参画の機会が増大することを理解させる。 ◇講義内容 ・FacebookやSNSの利用方法 ・動画と写真の利用方法 ・撮影場所のマッピング方法 ・電子書籍の利用方法 ・その他趣味に興ずるソフトウェアの紹介 (音楽、ラジオ、お絵かき等のソフトウェア)
第4日目 (4コマ目)	～成果と応用～ 第5講義 ルート検索の方法	◇講義のねらい 自宅等から避難場所までの避難ルートのマップを作成させることで、社会貢献への可能性を理解させる。 ◇講義内容 ・ルート検索の利用方法 ・グループによる実習 ①受講者を3グループに分け、自宅等から指定避難場所までの避難ルートのマップを作成し、危険箇所をチェックする ②便利な利用方法、趣味、就労・起業、社会参画等に関する討議 ・成果発表 (グループ毎に発表)
	オリエンテーション 及び閉会	◇オリエンテーション ・成果発表者の決定 ・アンケートの配布、記入及び回収 ◇閉会式

各地域の講習会では、各回（コマ）の講習会終了時に、受講者に対し、アンケートを実施した。しかし、全4回の講習会のうち、一部の講習会に欠席した者、アンケートが未提出であった者が存在したため、受講者全員（992人）から回収が行えず、次に示す集計総数となった。

- ・第1日目の講習会に対するアンケートの集計総数；962人
- ・第2日目の講習会に対するアンケートの集計総数；938人
- ・第3日目の講習会に対するアンケートの集計総数；916人
- ・第4日目の講習会に対するアンケートの集計総数；884人
- ・講習会全体に対するアンケートの集計総数；892人

以降に示す“（受講者のアンケート結果）”は、この集計総数から“未回答”の回答を除いた値を母数（有効回答数）とした。

この講習会に参加した受講者に対するアンケートの集計結果に基づく、標準カリキュラムの評価を次に示す。

a) 標準カリキュラムの構成と講義内容について

講習会全般を通じての標準カリキュラムの構成と講義内容は、次に示すアンケート結果から、当初、本講習会を実施するに当たって想定した目的を達成し得る構成・内容であったと考えられる。

（受講者のアンケート結果）

- ・講義内容について、

（とても）わかり易い又はちょうど良いと回答 79%

	とても わかり易い	わかり易い	ちょうど 良い	少し難しい	とても 難しい	未回答
892	140 (18%)	293 (39%)	171 (22%)	144 (19%)	13 (2%)	131

- ・タブレットの利用について、

継続的に又は今後、利用したいと回答 75%

	継続的に 利用したい	今後、 利用したい	必要があれば 利用したい	利用する つもりはない	未回答
892	236 (27%)	410 (48%)	219 (25%)	2 (0%)	25

- ・タブレットの利用したい分野について、 （複数回答）
- 日常生活を便利にするために利用したいと回答 644件
- 趣味等で楽しむために利用したいと回答 683件
- コミュニケーションのために利用したいと回答 449件
- 社会インフラ（安全・安心）用に利用したいと回答 448件

<第1日目：ICT活用事例紹介／基本操作>

標準カリキュラムの第1日目（1コマ目）は、「学んで体験」と題して、ICTの活用事例の紹介及びタブレットの基本操作を通じて、タブレット操作に慣れ親しんでもらい、タブレットが高齢者にとって有用なICT機器であり、情報の取得やコミュニティへの参加を容易にし、高齢者でも地域への社会参画できる機会があることを啓発することを目的としている。次に示すアンケート結果から、この目的を達成したと考えられる。

（受講者のアンケート結果）

- ・ ICT活用事例紹介について、

よく又はある程度理解できたと回答 **94%**

	よく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	未回答
962	242 (36%)	388 (58%)	34 (5%)	4 (1%)	294

- ・ 基本操作について、

ウィンドウタッチ操作をよく又はある程度理解できたと回答 **94%**

	よく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	未回答
962	274 (43%)	328 (51%)	33 (5%)	8 (1%)	319

- ・ 基本操作について、

キーボード操作をよく又はある程度理解できたと回答 **94%**

	よく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	未回答
962	268 (43%)	324 (51%)	28 (5%)	8 (1%)	334

- ・ 基本操作について、

音声入力操作をよく又はある程度理解できたと回答 **92%**

	よく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	未回答
962	262 (43%)	301 (49%)	35 (6%)	11 (2%)	353

<第2日目；インターネットの利用>

標準カリキュラムの第2日目（2コマ目）は、「便利に使う」と題して、インターネットにアクセスすれば、多くの情報が容易に得られ、メールやテレビ電話等が安否確認手段として、また高齢者自身の孤立を防止するためにも有用であり、オンラインショッピング等の利用により自己の利便性が向上する。その利用に当たっては、セキュリティ対策に配慮し、誹謗中傷をしないなどの情報モラルやマナーにも留意することの大切さを理解することを目的としている。次に示すアンケート結果から、この目的を達成したと考えられる。

（受講者のアンケート結果）

- ・ 講義内容について、

電子メールの利用方法をよく又はある程度理解できたと回答 **87%**

	よく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	未回答
938	322 (35%)	476 (52%)	105 (11%)	14 (2%)	21

- ・ 講義内容について、

テレビ電話の利用方法をよく又はある程度理解できたと回答 **82%**

	よく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	未回答
938	223 (26%)	493 (56%)	143 (16%)	15 (2%)	64

- ・ 講義内容について、

ウェブの利用方法をよく又はある程度理解できたと回答 **79%**

	よく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	未回答
938	240 (29%)	420 (50%)	155 (18%)	25 (3%)	98

<第3日目；楽しい使い方>

標準カリキュラムの第3日目（3コマ目）は、「趣味で活用」と題して、タブレットのカメラ機能を使って撮影した写真を整理し他の人と共有したり、Facebookへ発信したり、また電子書籍を読んだり、音楽を聴いたり、ネットラジオを聴いたり、お絵かきアプリを使って塗り絵をしたりするなど、タブレットには多くのアプリケーションがあることを知ってもらい、趣味によるサークル活動等を通じて、社会参

画の機会が増大することを啓発することを目的としている。次に示すアンケート結果から、この目的を達成したと考えられる。なお、Facebookについては、受講者が意図せずに発信した情報が広く世間に流出し、混乱を招くことを防ぐため、受講者に実際に操作をさせず、座学による講義における説明に留めた等から、他の項目と比較して、受講者の理解度が低かったものと考えられ、体験型（実践型）の講習が効果的であることが分かる。

（受講者のアンケート結果）

- ・ 講義内容について、

動画と写真の利用方法をよく又はある程度理解できたと回答 **86%**

	よく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	未回答
916	244 (27%)	523 (59%)	102 (12%)	19 (2%)	28

- ・ 講義内容について、

Facebookの利用方法をよく又はある程度理解できたと回答 **63%**

	よく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	未回答
916	112 (14%)	383 (49%)	224 (29%)	61 (8%)	136

- ・ 講義内容について、

電子書籍の利用方法をよく又はある程度理解できたと回答 **88%**

	よく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	未回答
916	253 (30%)	491 (58%)	91 (11%)	14 (1%)	67

- ・ 講義内容について、

音楽を聴くの利用方法をよく又はある程度理解できたと回答 **89%**

	よく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	未回答
916	291 (36%)	424 (53%)	71 (9%)	19 (2%)	111

- ・ 講義内容について、

ラジオを聴くの利用方法をよく又はある程度理解できたと回答 **92%**

	よく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	未回答
916	364 (44%)	402 (48%)	60 (7%)	10 (1%)	80

- ・ 講義内容について、

絵を描くの利用方法をよく又はある程度理解できたと回答 **91%**

	よく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	未回答
916	320 (39%)	435 (52%)	60 (7%)	13 (2%)	88

<第4日目；ルート検索の方法>

標準カリキュラムの第4日目（4コマ目）は、「成果と応用」と題して、ルート検索のアプリケーションを利用して、自宅等から避難場所までの避難ルートのマップを作成し、タブレット利用の可能性について考えさせた。グループ実習を中心に置き、グループ内で討議してまとめた内容をグループとして発表し、これを受講者全員で共有することで、タブレットは、自己の利便性の向上に留まらず、社会貢献のためのツールとして可能性があることを啓発することを目的とした。次に示すアンケート結果から、この目的を達成したと考えられる。ICTの利活用を通じて、高齢者の社会参画は、機会と工夫で実現できることの理解が深まったことが分かる。

なお、受講者からは、タブレットを利用する環境の構築方法、詳細な設定方法、費用等についても講義して欲しい旨の要望もあった。これらについては、ICTを活用して操作する能力等を向上させるICTリテラシーとは異なるため、標準カリキュラムに盛り込んでいない。今後、実際に自治体等が実施する講習会では、地域の関係事業者と連携して、カリキュラムに追加することで、高齢者のICT利活用の促進につながるものと考えられる。

(受講者のアンケート結果)

- ・ 講義内容について、

ルート検索の利用方法をよく又はある程度理解できたと回答 **83%**

	よく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった	未回答
884	146 (17%)	582 (66%)	130 (15%)	18 (2%)	9

・ルート検索の利用方法は非常に又は役立つと回答 **93%**

	非常に役立つ と思った	役立つと 思った	あまり 役立たない と思った	役立たない と思った	未回答
884	269 (31%)	531 (62%)	55 (6%)	9 (1%)	20

・タブレットの利用に関する討議に積極的又は参加したと回答 **95%**

	積極的に 参加した	討議に 参加した	あまり 討議に興味 がなかった	討議に興味 がなかった	未回答
884	310 (37%)	480 (58%)	41 (5%)	4 (0%)	49

・討議の結果、社会参画活動に是非参加又は興味を持ったと回答 **92%**

	社会参画活動を 是非してみたい	社会参画活動に 興味を持った	社会参画活動は 関心がない	未回答
884	171 (21%)	574 (71%)	69 (8%)	70

・成果発表の内容をよく又はある程度理解できたと回答 **95%**

	よく 理解できた	ある程度 理解できた	あまり理解 できなかった	理解 できなかった	未回答
884	393 (47%)	406 (48%)	38 (4%)	6 (1%)	41

・成果発表の内容は、今後、役立つと思うと回答 **95%**

	非常に 役に立つ	役に立つ	あまり役に 立たない	役に立たない	未回答
884	225 (27%)	575 (68%)	37 (5%)	3 (0%)	44

b) 標準カリキュラムの時間配分（講義時間）について

講習会全般を通じての講義時間は、次に示すアンケート結果から、講習時間として、適当であったと考えられる。なお、操作に対する講義をゆっくり行って欲しかったという要望があった。

（受講者のアンケート結果）

・ 講義時間について、ちょうど良いと回答

76%

	とても長い	長い	ちょうど良い	少し短い	とても短い	未回答
892	17 (2%)	44 (6%)	581 (76%)	105 (13%)	22 (3%)	123

④ 実施体制及び協力体制

本実証事業の実施体制及び協力体制を図2.1-5に示す。

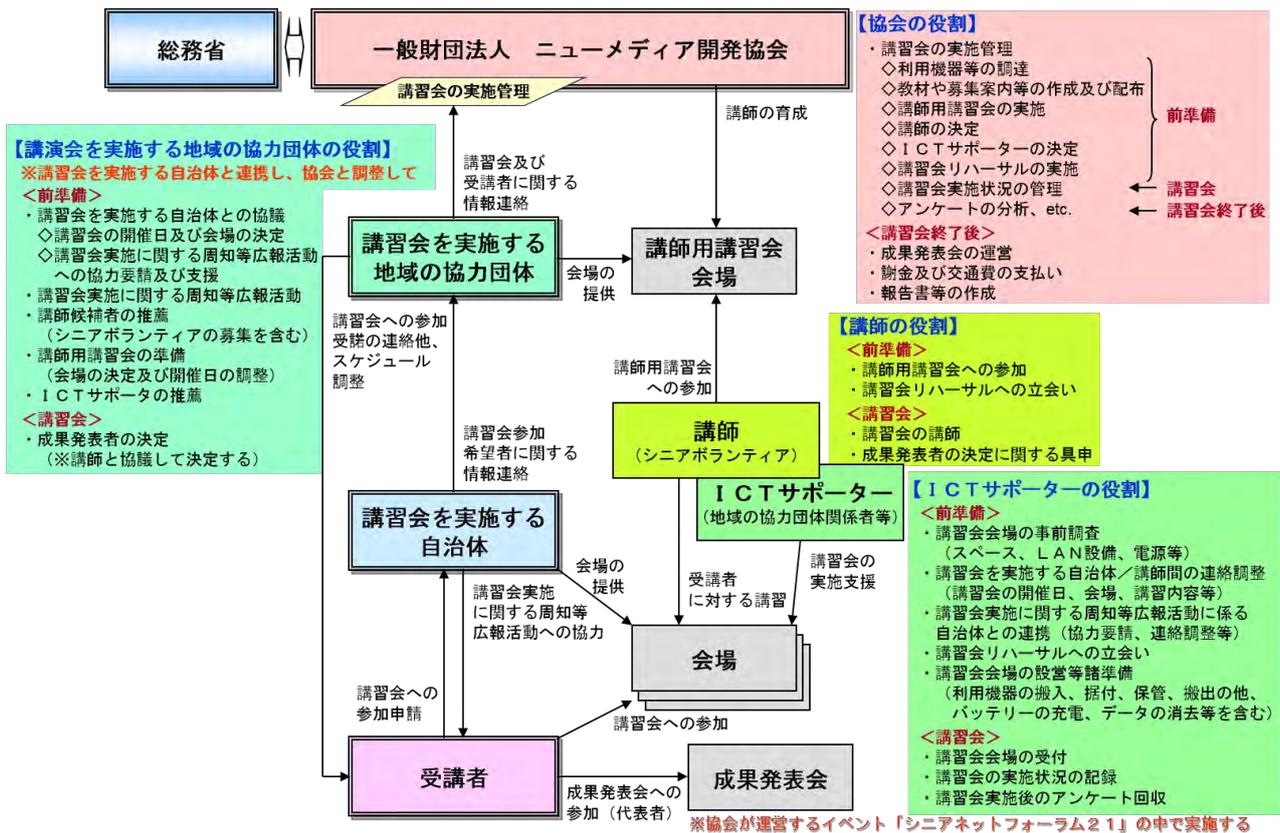


図2.1-5 実施体制及び協力体制

本実証事業は、総務省から当協会が請け負い実施した。その実証事業を行うための実証フィールドは、総務省が選定した自治体（11自治体）から提供を受ける形で実施した。当該11自治体で実施される講習会を円滑に実施するため、11自治体との

窓口を当協会内に設け、受講者の集客状況、利用機器の配備、撤収及び保管に関するスケジュール等、講習会全体の実施管理が行える実施体制を構築した。

各地域において実施する講習会は、自治体に加え、地域に密着してICT講習会の開催等の活動を行っているシニアネット団体等（運営協力団体）の協力を得て、この運営協力団体が講習実務の中心的役割を担い、受講者に対してもきめ細やかに対応がとれる体制を確立して実施した。

a) 事業実施者（当協会）の役割

当協会の主な役割は、講習会の事前準備として、利用機器の調達等、教材の作成及び配布、募集案内等の作成及び配布、講師の決定、ICTサポーターの決定、講習会リハーサルの実施を行い、講習会の実施に当たっては、その実施状況を管理し、受講者、講師及びICTサポーターから回収したアンケート結果を講習会の実施後に集計し、実証結果をまとめるとともに、成果発表会を開催

b) 講習会を実施する地域の協力団体（運営協力団体）の役割

講習会を実施する地域の協力団体の役割は、自治体と連携して講習会実施に関する周知等広報活動の支援、講師候補者の推薦、講師育成のための講師用講習会の準備（会場の決定及び開催日の調整）、ICTサポーターの推薦等

c) 講習会を支援する自治体の役割

講習会を支援する自治体の役割は、講習会を実施する会場の提供、講習会の実施に関する周知等広報活動

2.2 講習会の事前準備

(1) 会場及び利用機器の選定等

① 会場の選定及び確保

講習会を実施する会場は、自治体と調整し、多くの高齢者が受講可能な会場を選定した。会場の選定に当たっては、少なくとも15人の受講者に対応でき、十分なインターネット接続環境を整備できる会場、可能な限り、同一施設内に利用機器の施錠可能な保管場所が確保できる会場とした。また、交通の便がよく、適切な室温調節が可能である会場を選択した。会場の確保は、講習会実施の周知を開始する前に終え、各会場の講習会が円滑に実施できるように準備した。

しかし、手配した会場によっては、会場にインターネット接続環境が整備されていない、インターネット接続環境はあるが、自治体のイントラネット環境のみで講習会で利用できる環境が整備されていない等のインターネットへの接続が十分に確保できない状況が発生した。このように、インターネット環境がない場合には、モバイルルータを使用したが、地域によっては通信環境が良好でない場合があった。また、画像を使用するカリキュラムでは、同時アクセスにより負荷が高まり接続が不安定になる事象が発生した。

それに対しては、無線ルータの増設、自治体専用のLAN回線を分岐して講習会のためのインターネット環境を確保し、または受講者をグループに分けてアクセスのタイミングをずらす等の対策を講じた。

事前に、通信キャリアのサポートエリア、建物の通信設備の設置状況、インターネットへのアクセス制限等を確認し、講習会を実施する本番と同様の環境で事前に接続テストを実施することが極めて重要である。

② 利用機器の選定及び配備

本講習会で使用するタブレットのOSは、現在の国内のタブレット市場のシェアにおいて、上位を占めるiOSとAndroid OSの二つの異なるOSとした。なお、一つの自治体で使用するOSは、一つのOSに統一し、iOS(iPad)を使用して講習会を実施する自治体と、Android OS(Androidタブレット)を使用して講習会を実施する自治体とに分けて実証した結果、タブレットのOSの違いに起因する混乱等は発生しなかった。

タブレットの準備に当たっては、複数地域での講習会の実施や受講者数の増加、タブレットが故障した場合を考慮した。タブレットについては、電波法等の各種法令に適合した一般市販品、9.7インチ以上、かつ、記憶容量16GB以上で、マイク、前面カメラ及び背面カメラが内蔵され、公式のアプリケーションストアが利用できるものを選定した。

その他、無線LANルータ、プロジェクタ、プリンタ等が必要な機器である。なお、無線LANが使用できない会場用では、モバイルルータ(LTE用又はWiMAX用)が必要である。

また、iPad及びAndroidタブレットの画像を、プロジェクタを介してスクリーンに投影できるように、アダプタを準備した。プリンタは、タブレット画面の印刷、グループ討議の結果出力、講習会会場での支援業務用である。

講習会の実施に先立ち、無線LANルータ（又はモバイルルータ）とタブレットとの間のWi-Fiルータの設定、Gメール等のアカウント設定、講義に使用するアプリケーションの設定及び動作確認が必要である。

タブレットの液晶画面は、清掃が必要で、講習会の合間に実施した。タブレットは、機種によって差はあるが、6時間使用後、充電が必要で、講習スケジュールを見ながら、講習会の合間、場合によっては充電しながら講習会を実施した。

タブレット講習会では、タッチペン（高齢者の場合、タッチ操作でのトラブルが非常に多い。手書き入力対応のために必要である。）、イヤホン（講習会場では、音が混信して音声入力に支障が発生。音楽・ラジオなどのアプリケーション使用時に必要。特に高齢者は音を大きくして聞くケースが多い。）、スタンド（Facetime、カメラアプリを利用する際に必要。）等の備品の準備に対する要望があった。

タブレット操作の理解度を増すために、次回の講習会までタブレットを持ち帰って自宅で復習したいとの要望もあった。しかし、今回の講習会は、同時期に2コースの講習を実施している会場がある等で、物理的に持ち帰ることを許可することは出来なかった。タブレットの持帰りを許可する場合には、タブレットの貸与ルール、回線接続の対応法、自宅等での学習時のサポート体制等を別途、検討する必要がある。

（2）教材の作成

① 講師用研修教材の作成

講師用研修教材は、当協会内にワーキンググループを発足させ、その意見を反映しつつ、円滑な講習会運営及び各自治体での講習内容の整合性を確保するため、具体的な作業、講習の内容、進め方等を記載した「講習会実施マニュアル」の他、講習のポイント（例えば、繰り返す同じ質問がされても笑顔で答える。講師自身の体験を生かし、ゆっくりと丁寧に指導する。会場に集う受講者同士の仲間づくりを大事にする。受講者の関心がある開催場所の身近な事例を紹介する。等）を明記した講師用の「指導マニュアル」を作成し、有識者検討委員会の審議を経て使用した。なお、指導マニュアルは、タブレット2機種それぞれに対応したものを作成した。これらの講師用研修教材は、テキスト以外にも、視覚的にイメージがしやすいように図形による描画、写真又は画像の取込み等を駆使し、講師が理解し易い教材となるように作成した。

② 受講者用研修教材の作成

受講者用研修教材の作成に当たっては、ワーキンググループのメンバーの意見を反映しつつ、タブレット等ICT機器の操作に慣れていない高齢者のための研修教材であることに配慮し、テキスト以外にも、視覚的にイメージがしやすいように図形による描画、写真又は画像の取込み等を駆使し、また操作上の留意点を具体的に例示し、受講者が理解し易い教材となるように作成し、有識者検討委員会の審議を経て使用し

た。なお、受講者用研修教材は、タブレット2機種それぞれに対応して作成した。

前半グループの講習会では、講習会を実施しながら、テキストの技術的な不備を抽出するとともに、その他改善箇所を抽出し、後半グループの講習会で使用するテキストに反映した。さらに、後半グループの講習会で使用する標準カリキュラムには、SNSの体験実習（タブレットのカメラ機能を使って撮影した写真等を共有する操作を通じて、SNSを体験する）と、ICTリテラシーに関する理解状況を確認するための『「スキルチェックテスト」及び「確認テスト」の60問中、10問程度を選択し試行してする』に関する講習内容を追加した。

教材内容に関するアンケート結果（但し、“未回答”の回答を除く値を母数として評価した）から、本講習会を実施するに当たって、講習内容等理解しやすい教材を開発できたものと考えられる。

なお、『Facebook操作や避難ルートの検索操作は難しい。講義の内容が多種で多過ぎる。講義時間が短い。テキストの参照と操作は同時に出来ない。（実際に利用する場合は、）講師の指導がなければ操作出来ない。』という意見もあった。これは、受講者の受講前のリテラシーレベルによることから、募集時に受講者の経験値を一定にすることで解消が可能となる場合がある。さらに、タブレットに関すること（例えば、購入方法、インターネットとの接続に関する契約と設定方法、アプリケーションの購入やダウンロード等）を説明して欲しいという要望もあった。

（受講者のアンケート結果）

- ・教材内容について、

（とても）分かり易い又はちょうど良いと回答 **76%**

	とても わかり易い	わかり易い	ちょうど 良い	少し難しい	とても 難しい	未回答
892	122 (16%)	299 (38%)	169 (22%)	170 (22%)	15 (2%)	117

<第1日目；ICT活用事例紹介／基本操作>

（受講者のアンケート結果）

- ・テキストの内容について、

ICT活用事例紹介を（とても）分かり易いと回答 **85%**

	とても わかり易い	わかり易い	少し難しい	とても 難しい	未回答
962	209 (34%)	319 (51%)	82 (13%)	10 (2%)	342

・テキストの内容について、

ウィンドウタッチ操作を（とても）分かり易いと回答

84%

	とても わかり易い	わかり易い	少し難しい	とても 難しい	未回答
962	202 (33%)	312 (51%)	89 (14%)	10 (2%)	349

・テキストの内容について、

キーボード操作を（とても）分かり易いと回答

84%

	とても わかり易い	わかり易い	少し難しい	とても 難しい	未回答
962	206 (34%)	310 (50%)	85 (14%)	11 (2%)	350

・テキストの内容について、

音声入力操作を（とても）分かり易いと回答

87%

	とても わかり易い	わかり易い	少し難しい	とても 難しい	未回答
962	206 (35%)	303 (52%)	64 (11%)	14 (2%)	375

<第2日目；インターネットの利用>

(受講者のアンケート結果)

・テキストの内容について、

電子メールの利用方法を（とても）分かり易いと回答

74%

	とても わかり易い	わかり易い	少し難しい	とても 難しい	未回答
938	233 (26%)	438 (48%)	211 (23%)	27 (3%)	29

・テキストの内容について、

テレビ電話の利用方法を（とても）分かり易いと回答

72%

	とても わかり易い	わかり易い	少し難しい	とても 難しい	未回答
938	183 (21%)	435 (51%)	226 (26%)	18 (2%)	76

- ・テキストの内容について、
ウェブの利用方法を（とても）分かり易いと回答 **69%**

	とても わかり易い	わかり易い	少し難しい	とても 難しい	未回答
938	199 (24%)	376 (45%)	219 (26%)	39 (5%)	105

<第3日目；楽しい使い方>

(受講者のアンケート結果)

- ・テキストの内容について、
動画と写真の利用方法を（とても）分かり易いと回答 **70%**

	とても わかり易い	わかり易い	少し難しい	とても 難しい	未回答
916	178 (21%)	426 (49%)	241 (27%)	23 (3%)	48

- ・テキストの内容について、
Facebookの利用方法を（とても）分かり易いと回答 **52%**

	とても わかり易い	わかり易い	少し難しい	とても 難しい	未回答
916	100 (13%)	301 (39%)	308 (40%)	61 (8%)	146

- ・テキストの内容について、
電子書籍の利用方法を（とても）分かり易いと回答 **74%**

	とても わかり易い	わかり易い	少し難しい	とても 難しい	未回答
916	191 (23%)	429 (51%)	197 (24%)	19 (2%)	80

(3) 講師及びICTサポーターの配置等

① 講師の配置及び研修

講習会の講師は、ICTスキルを有し、かつ、高齢者向けのICT講習会の講師経験のあるシニアボランティアを、地域に密着してICT講習会の開催等の活動をしている運営協力団体と連携して選任した。講師の配置に当たっては、1コマ当たりの講習会の受講者4人に対して1人の講師を配置(受講者15人に対して、1人のメイン講師と3人のサブ講師を配置)するとともに、当日予定していた講師が急病等の理由によって講習会の講師の任が果たせない事態が生じても、控えの講師(3人程度)を充当し、速やかに対応できるように、講習会を実施する自治体毎に7人以上の配置を基本とする体制とした。

講師には、概ね50歳以上の者(受講者と同世代であり、同じ価値観を有する者)を充て、その資質として、タブレットを使ったことのない受講者に対して分かりやすく教えられる能力を有する者で、講師用研修教材を使用した講師の研修講習を受け、研修を完了した者を充てた。具体的には、講習会を実施する地域に当協会が委嘱しているメロウ・マイスター⁷又はそれと同等の知識、技術及び経験を有する講師を派遣し、運営協力団体が、講師候補として推薦したシニアボランティアに対して、標準カリキュラム全ての講義方法を習得するための研修を実施した。なお、各地域の講師向け研修講習の実施日時及び場所を表2.1-6に示す。

各地域において実施した講師向け研修講習の受講者について、研修終了後、講師として一定水準に達しているかどうかを確認し、研修完了とした者を講習会の講師として、計107人に委嘱した。表2.2-1に委嘱した講師数を示す。

講師向け研修講習については、『講師向け研修講習と実際の講習の間隔が少な過ぎる。間隔に余裕があれば、運営協力団体で補習も出来る。』との意見もあった。

講師の数や資質は、次に示すアンケート結果から、当初、本講習会を実施するに当たって計画したとおりに配置できたと考える。また、講師に対する感謝の言葉も多くの受講者から頂いた。

(受講者のアンケート結果)

・講師について、

(とても)分かり易い又はちょうど良いと回答

90%

	とても わかり易い	わかり易い	ちょうど 良い	少し難しい	とても 難しい	未回答
892	214 (28%)	310 (41%)	162 (21%)	74 (9%)	5 (1%)	127

⁷ メロウ・マイスターとは、一般財団法人ニューメディア開発協会が運営する「シニア情報生活アドバイザー制度」におけるシニア情報生活アドバイザー資格取得者のうち、IT技術の利活用が優秀であり、かつ、教育・指導に卓越した能力を有し、シニア情報生活アドバイザーのテキスト作成及び制度運営等について協会に助言するために任命した者をいう。

② ICTサポーターの配置

本講習会を円滑に実施するため、ICTサポーターを配置した。ICTサポーターは、講習会を実施する地域の運営協力団体と連携して、高齢者と円滑にコミュニケーションを取ることができる者を選任して充てた。

ICTサポーターは、講師と同様に、急病等の理由によって講習会の支援の任が果たせない事態が生じても、控えのICTサポーターを充て、速やかに対応できるように、講習会を実施する地域毎に5人以上の配置を基本とする体制とした。

ICTサポーターは、運営協力団体からICTサポーターとして推薦を受けた者から選定し、計115人に委嘱した。表2.2-1に委嘱したICTサポーター数を示す。

表2.2-1 委嘱した講師及ICTサポーター

地域 (自治体)	運営協力団体	講師数	ICT サポーター数
北海道 帯広市	特定非営利活動法人 とかちシニアネット	8人	11人
岩手県 一戸町	特定非営利活動法人 いわてシニアネット	9人	3人
栃木県 栃木市	特定非営利活動法人 栃木県シニアセンター	11人	11人
新潟県 新潟市	特定非営利活動法人 新潟県高度情報社会生活支援センター	11人	10人
福井県 坂井市	特定非営利活動法人 いきいきITクラブ	8人	7人
岐阜県 大垣市	グレートインフォメーション ネットワーク株式会社	10人	20人
和歌山県 田辺市	特定非営利活動法人 つれもてネット南紀熊野	10人	9人
山口県 光市	特定非営利活動法人 シニアネット光	14人	20人
愛媛県 松山市	特定非営利活動法人 トータルサポート21	10人	7人
鹿児島県 薩摩川内市	特定非営利活動法人 鹿児島ASC	5人	3人
沖縄県 南城市	シニアネットNAHA	10人	14人
合計		107人	115人

(4) 受講者の募集

① 講習会の募集支援

講習会受講者の募集に当たっては、広報誌の発行等を行う自治体及び講習会の実施実績のある地域の協力団体と連携して、自治体毎に効果的かつ効率的な方法を検討して実施した。また、講習会受講者の募集に当たっての募集資料は、各自治体で利用できる共通的な雛形を作成した。共通的な雛形には、本講習会は総務省の「ICTシニアコミュニティ形成促進プロジェクト」事業の一環として開催されること、本講習会の趣旨は「ICT利活用による高齢者の社会参画促進に向けた講習会」であること、募集時に取得する個人情報の取扱いを明示することを必須とし、講習会の受講対象者の年齢等の設定、講習会で得られる成果、講習会の受講料が無料であること等を併記して作成した。その雛形をベースに各自治体で、独自の募集資料を作成し、受講希望者を公募した。

② 講習会の応募及び受講者の選定

公募は、費用対効果を考慮しながら、各自治体の実情に合わせた募集方法で実施した。各自治体で実施した募集は、市の広報誌に掲載、チラシを印刷して公的な施設に設置・掲示、関係機関や団体経由で配布を行った。また、地域の老人会やシニア向けのサークル等を中心に、口コミ等による周知拡大も図った。

自治体によっては、「市の広報誌では、字数制限があるので詳細を明示できない。チラシを広報誌に差込んで、全世帯に配布した。同様に、回覧板で、全世帯に周知した。マスコミと連携(新聞記事に掲載、地元のケーブルテレビで放映)した。」の方法で募集の効果を上げた。公募の結果、応募者の75% (受講者のアンケート結果による。)が“市の広報を見て、チラシを見て応募した”であった。応募者数は地域によって異なったが、全体の応募者は、定員(992人)の1.7倍の1,680人であった。

応募者が多数の場合の受講者の選定は、講習会実施地域の住人で、65歳以上の高齢者を優先するという統一選定基準を設け、最終選定は、各自治体及び運営協力団体が行った。応募者及び選定した受講者の構成を表2.2-2に示す。

表2.2-2 応募者及び受講者の構成

応募者数；(上段)人数、(下段)応募倍率
性別／年齢；(上段)人数、(下段)構成比率

地域 (自治体)	応募者数 (倍率)	受講者数	性別		年齢					
			男 (%)	女 (%)	～ 59歳 (%)	60歳 ～ (%)	65歳 ～ (%)	70歳 ～ (%)	75歳 ～ (%)	80歳 ～ (%)
北海道 帯広市	131	91	35	56	2	11	41	21	10	6
	1.4		38.5	61.5	2.2	12.1	45.1	23.1	11.0	6.6
岩手県 一戸町	63	63	27	36	9	16	17	10	10	1
	1.0		42.9	57.1	14.3	25.4	27.0	15.9	15.9	1.6
栃木県 栃木市	(注)	88	46	42	3	12	26	33	10	4
			52.3	47.7	3.4	13.6	29.5	37.5	11.4	4.5
新潟県 新潟市	351	90	36	54	0	0	53	23	12	2
	3.9		40.4	60.0	0.0	0.0	58.9	25.6	13.3	2.2
福井県 坂井市	179	98	44	54	0	13	25	44	14	2
	1.8		44.9	55.1	0.0	13.3	25.5	44.9	14.3	2.0
岐阜県 大垣市	291	101	36	65	8	18	40	24	9	2
	2.9		35.6	64.4	7.9	17.8	39.6	23.8	8.9	2.0
和歌山県 田辺市	120	94	38	56	8	20	24	22	14	6
	1.3		40.4	59.6	8.5	21.3	25.5	23.4	14.9	6.4
山口県 光市	92	87	35	52	5	8	23	27	17	7
	1.1		40.2	59.8	5.8	9.2	26.4	31.0	19.6	8.0
愛媛県 松山市	132	92	37	55	7	16	32	20	15	2
	1.4		40.2	59.8	7.6	17.4	34.8	21.7	16.3	2.2
鹿児島県 薩摩川内市	(注)	92	63	29	0	39	26	18	7	2
			68.5	31.5	0.0	42.4	28.3	19.6	7.6	2.2
沖縄県 南城市	141	96	45	51	2	27	40	18	6	3
	1.5		46.9	53.1	2.1	28.1	41.7	18.8	6.3	3.1
合 計	1,680	992	442	550	44	180	347	260	124	37
			44.6	55.4	4.4	18.1	35.0	26.2	12.5	3.7

(注) 定員になった時点で応募を締切ったため、申込みデータは無し。

2.3 講習会の実施

(1) 講習会リハーサルの実施

各自治体の3会場で実施する講習会のうち、最初の会場で、講習会を実施する前に、講習会のリハーサルを行い、標準カリキュラムの4コマ（第1日目から第4日目までの全て）の具体的な内容の他、問題なく講習会が実施できることを確認した。

講習会は、基本的に、講師及びICTサポーターが中心となり実施したが、講習会リハーサルについては、当協会から担当者が参加し、全体の確認を行った。また、最初の会場で実施する講習会にも参加し、問題なく講習会が実施されているか否かを確認し、必要に応じて、講師及びICTサポーターに対して指導を行った。

また、標準カリキュラムと別に、その地域の文化／習慣に根付いた独自のカリキュラムの追加がある場合には、受講者を講習会に集中させることに有効であると考えられることから、これを推奨したが、講習会リハーサルの中では、特に追加はなかった。

各自治体で実施した講習会リハーサルの開催日時及び場所を表2.1-6に示す。なお、「講習会リハーサルの実施目的の一つとして、不具合の事前摘出もあると考えられ、この不具合解消の対策のためにも本番数日前に実施し、そして、本番を向かえることが必要である。」という意見があった。

(2) 講習会の実施

講習会は、講師及びICTサポーターが中心となり、各自治体から提供された3会場において、1コマ3時間程度の講習を全4コマ、これを1コースとして、同じ内容の講習を2コース実施した。各コースの受講者数は15人を基本とした。各自治体のコース毎の受講数を表2.1-6に示す。一部のコースを台風の影響で延期したケース以外は、計画どおり、全コースの講習会を実施した。全体の受講者は、992人で、当初の講習会の計画したとおりの実証対象者を集めることが出来た。なお、欠席者の主な欠席理由は、インフルエンザ等の体調不良であった。

講師は、標準カリキュラムに基づき、講義を実施した。対象がシニアで飽きさせないために、くどい説明は避け、簡潔に短時間で理解してもらうように配慮した。また、適宜の休憩や、復習時間を設けるようにした。なお、講師からは、「受講者のICTの経験がバラバラで、講習の進め方が難しかった。」という意見もあった。

ICTサポーターは、講習会を実施する講習会会場の設営等諸準備（利用機器の搬入及び据付、保管、搬出）、講習会の受付、講習会の実施状況の記録を行い、講師が問題なく講義ができる環境を構築するなどの支援を行った。具体的には、毎回の講習の開始前又は終了後に、Safariの履歴、cookieの削除、各アプリケーションの履歴や保存された写真やメモ等が残っていないことを確認し、次の講習をスムーズに進めた。

その結果、多くの受講者から講師及びICTサポーターに対する感謝の言葉を頂いた。各自治体の講習会の風景を図2.3-1に示す。



(a) 北海道帯広市



(b) 岩手県一戸町



(c) 栃木県栃木市

図2.3-1 講習会風景 (1)



(d) 新潟県新潟市



(e) 福井県坂井市



(f) 岐阜県大垣市

図2.3-1 講習会風景 (2)



(g) 和歌山県田辺市



(h) 山口県光市



(i) 愛媛県松山市

図2.3-1 講習会風景 (3)



(j) 鹿児島県薩摩川内市



(k) 沖縄県南城市

図2.3-1 講習会風景 (4)

(3) 受講者代表による成果発表会の実施

各自治体において実施した講習会の成果を共有し、高齢者がICTを継続的に利用し、またICTを用いた社会参画を促進するため、各地域の受講者等から代表者1人、合計11人（以下「成果発表者」という。）を集め、平成27年3月13日（金）、エッサム本社ビル3階 グリーンホールにおいて、一般聴講の申込者47人（当協会のホームページで開催案内及び参加申込受付を実施した。）の参加を得て、成果発表会を実施した。成果発表会では、成果発表者に、「高齢者が社会参画を実現し、自らを活かし、役割を担った事例」等についての報告を頂き、講習会の在り方、社会参画の在り方等について、出席者全員で討論した。主な意見等は、次のとおりである。

- ・本事業の目的である「高齢者の社会参画促進」として、身の回りの問題点を、タブレットのカメラ機能を使用して撮影し、目で見える形で行政に知らせ、改善への道を開いたという、成果発表者からの発表を聞き、このような利活用が社会参画である。
- ・高齢者でもパーソナルコンピュータを持っている人は多い。パーソナルコンピュータとタブレットは別物であるという視点がまずは必要である。その上で、パーソナルコンピュータで出来ること／出来ないこと、タブレットで出来ること／出来ないことを整理し、タブレットはパーソナルコンピュータと比べて便利であることをもっとアピールした方が良い。そして、その中で、アプリケーションのダウンロード方法、購入時の決済方法を教え、アプリケーションが比較的安価で購入できることを教えれば、高齢者がタブレットを購入する動機付けにもなる。同時に、セキュリティに関する教育も必要である。
- ・タブレットの講習を受けて、タブレットを何に使うかが問題である。また、パーソナルコンピュータやタブレットの講座を開催しているが、受講者間で仲間を作り、自主的に活動するように指導している。その中で、タブレットを使って連絡を取り合い、実際にタブレットを使いこなす中で、自主的・継続的活動が生まれることを期待する。
- ・受身の講習会ではなく、タブレットを使って何をするかを考える講習会にしても有効。何をするかの目的がわかれば、そのために何をしなければならぬかがわかる。そして、セキュリティ等、やってはいけないことを明確に教えればよい。

なお、成果発表者が発表に用いた資料は、この実証事業を通じて得た成果を広く他の地域へと周知・展開するために、本講習会の開催のポイント、これを普及展開するための方策等をまとめた『「高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会」に関する手引書』の付録に添付した。

成果発表会の風景を図2.3-2に示す。

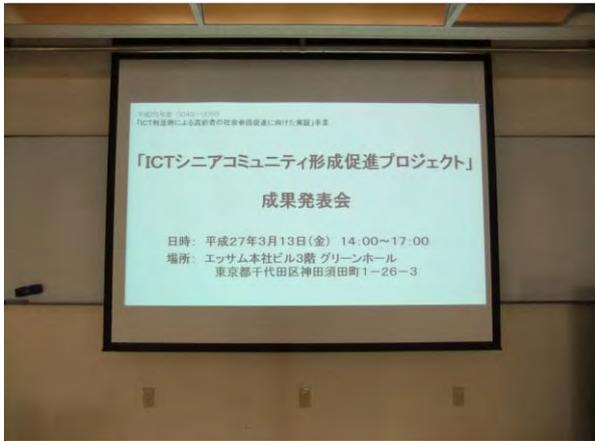


図2.3-2 成果発表会風景

(4) ICTリテラシー向上のメリットや効果的かつ効率的な講習方法の調査結果

各地域において実施した講習会の成果を確認するため、記入式（アンケート）による調査と対面式（ヒアリング）による調査を実施した。記入式（アンケート）による調査は、講師、ICTサポーター及び講習会の受講者の三者に対して行った。対面式（ヒアリング）による調査は、講習会の受講者に対して行った。受講者に対するヒアリングは、講師及びICTサポーターが行った。

これら調査票等の項目（アンケート項目及びヒアリング項目）は、本実証事業終了後も、自治体又は地域での自発的な取組みとして、普及展開ができるように、講習会の在り方を問う項目を設定した。特に、講習会の受講者に対しては、高齢者の社会参画促進等の観点から、講習会の目的に関する理解度、講習会のカリキュラム（実施内容）及びその進め方（実施方法）、講習会を通じて得られた成果、社会参画への今後の試みを中心に調査し、ICTリテラシー向上によるメリットとして取りまとめた。また、講師及びICTサポーターに対しては、講習会の準備、実施内容、実施方法を中心に調査し、効果的かつ効率的な講習会の進め方や進めるに当たっての留意点としてまとめた。

調査票（アンケート用紙及びヒアリング結果の記録用紙）は、当協会において、講習会を開催する前に、共通的に作成し、第2回有識者検討委員会に諮って決定した。そして、1コマの講義終了直後に関連調査票に記入する方法で行った。調査票に記入する時間を確保して、記入漏れがないように注意を喚起した。記入後の調査票は、ICTサポーターが、ほぼ、出席した受講者全員から回収した。そして、当協会で、調査票の集計を含めた分析を実施した。集計・分析した結果は、各章節で、「(受講者のアンケート結果)」として、評価に引用した。

a) ICTリテラシー向上のメリット

受講者に対するアンケート結果は、次のとおりである。

<受講者が所有しているICT機器>

・携帯電話	73%	(回答数; 704 / 回答者; 962)
・スマートフォン	13%	(回答数; 125 / 回答者; 962)
・パーソナルコンピュータ	70%	(回答数; 677 / 回答者; 962)
・タブレット	27%	(回答数; 264 / 回答者; 962)

<日常的に使用するICT機器>

・携帯電話	71%	(回答数; 687 / 回答者; 962)
・スマートフォン	12%	(回答数; 118 / 回答者; 962)
・パーソナルコンピュータ	60%	(回答数; 577 / 回答者; 962)
・タブレット	20%	(回答数; 191 / 回答者; 962)

このことから、受講者（高齢者）の情報伝達等に使用するICT機器としては、携帯電話及びパーソナルコンピュータが主流であり、近年登場したスマートフォンやタブレットは、携帯電話等と比較すると、思うほど普及していない。

本実証事業では、パーソナルコンピュータに代わる高齢者に最適なICT機器として“タブレット”を選択し、講習会を通じて、高齢者のICTリテラシーの向上に努めた。受講者から、タブレットが日常生活を便利にするツールであることを知り、購入した、購入したい等の感想を多く聞いた。今後、タブレットは、高齢者に最適なICT機器として普及すると考えられる。但し、タブレットが利用できる環境に無い者が大半を占めることも事実であり、タブレットの利活用促進のための環境整備に努める必要がある。

受講者からは、次のようにタブレットを利活用できるという発言があった。

- ・高齢者が社会参画しやすい環境を作ることができる
- ・社会参画やライフワークへの活用を通じて、生きがいを感じることができ、さらに、高齢者の閉じこもり防止にもつなげることができる
- ・タブレット操作により脳が活性化し、高齢者の健康維持へとつながる
また、高齢者に対する効果的かつ効率的な説明や相談に利用できる
- ・ウェブ検索等による情報収集や、地域情報の発信や共有に利用できる
- ・新しい人との交流やコミュニケーションの拡大等、仲間作りに利用でき、さらに、地域サークルの形成、組織での社会参画へと拡大が期待できる
- ・地域の人との連絡等、日常生活における地域活動や行事に利用できる
- ・高齢者の見守り等、高齢者が安心して安全に生活するために利用できる
- ・手話ボランティア、交通弱者への支援、障がい者支援、認知症予防等、ボランティア活動に利用できる

次に、今回の講習会受講者が、ICTリテラシー向上により、社会参画につながった5事例を報告する。

【事例1】高齢者がパソコン教室の講師を担当

私は、定年退職後、自分に何か出来ることはないかと探し、市の「高齢者のパソコン教室」を受講しました。それをきっかけに、「地域のITクラブ」に所属し、地域活動に参画しながら、パーソナルコンピュータ（以下「PC」という。）の勉強を続けていました。

タブレットの講習会の実施を「地域のITクラブ」が受託し、講師のための講習会を受講する機会を得ることができました。タブレットは、PCと違った感覚で、戸惑いもあり、初めは理解できませんでした。しかし、取り組んで行くうちに、自分でも、タブレットは本当に手軽で便利であると感じるようになりました。理事長から、メイン講師に指名され、不安もありましたが、折角のチャンスと心に決めて引き受けました。引き受けたからには、自分も楽しく、活用できないといけないとの思いで、練習に励みました。友達とメールや写真の写し方、テレビ電話でのおしゃべり、講習会会場へのルート検索、避難ルートの作成等、お互いに意見交換しながら習得しました。これも、楽しい思い出となりました。

タブレットの講習会の講師を担当するに当たっては、「自分自身が理解できなかったことは、受講者も同じである。指導の要点をゆっくり説明する優しさが大切である」と心掛けて講義しました。受講者には、「カメラを使う」と「旅行ルートの検索」に人気がありました。自宅で、こんなに簡単に交通機関の出発・到着時刻が分かるのか、早速、旅行したいと言う人もいました。避難ルートの作成は、地元のこととして、真剣に取り組む姿が印象深く残っています。タブレットは、聞いたことはあるが、若者がゲームをするものと思っていたが、自分も出来ると、大変、喜ばれ満足されてもいました。

タブレットの講習会の講師を担当し、自信とやりがいを感じました。これからも自分も楽しみながら、講師をしながら、沢山の出会いを大切に、社会貢献しながら実りある人生を歩んで行きたいと思っています。

【事例2】地域の問題を、カメラ機能を利用して解決

私は、携帯電話とPCを所有し、体調が悪い時の病名や応急処置の検索、国会の政治家の答弁等で分からない言葉の調査等に利用していました。タブレットが家にあっても、使用法が分からず、難しいと思い込み、使おうとはしませんでした。

今までは、タブレットのカメラ機能を使うことは考えていませんでしたが、今回の講習会で習い、こんなに便利で使いやすいものであることがわかり、タブレットの使用に自信ができました。そして、テレビを見ながら、タブレットで分からない言葉の意味を調べ、地名を聞いて、どこにあるのか等も調べています。タブレット使って、身体の関節の仕組みを調べることができ、いつも準備運動をするようになりました。さらに、地域の活動にカメラ機能を大いに利用するようになり、自分達の住んでいる地域の問題を解決しやすくなりました。

台風の予想進路も詳しくわかる様になり、川の氾濫の状況も写真で撮り、危険な状態であることを市役所に説明でき、排水の工事が行われて、周辺の農家はとても喜んでいます。

今まで、地域の草刈りは生活道路と拝所のみで、保育園の子供たちの散歩道は対象外でした。草が生茂る現場の写真を撮り、区の集まりで説明した結果、草刈りすることになりました。

また、私は漁業に従事していますが、航空写真で、海の地形がよくわかり、リーフで船を止めることができる場所がよく分かるようになり、そのため、危ない所に釣り船を止めている場合は指導しました。また、リーフの中で魚の通る水路がわかるようになり、追込み漁の袋網を入れる位置を簡単に決めることも出来るようになりました。自然の大切さや危険な個所、潮の流れ等を教え、事故防止の指導を行いました。

【事例3】離島から、新鮮な魚介類の情報を発信

私は、パソコンを持っていますが、文書や年賀状、写真を編集する程度で、スマートフォンやタブレットは使ったことはありませんでした。歳を取るとスマートフ

オンやタブレットは必要がない、何の価値もないと勝手に思い込んでいました。しかし、私の周りでも使っている方が徐々に多くなり、それを見たり、聞いたりして、少しずつ関心を持ち始めていた時、私の住んでいる町から峠を越えて車で30分のコミュニティセンターで、講習会があるという案内がありました。いい機会だと思い、今後、きっと使うことがあるだろうと思い、受講しました。

私は、退職した後、漁業に従事して、自船で一本釣りや、素もぐり漁で生計を立てています。最近、インターネットショッピングをよく利用している友人にお願いして、魚群探知機を購入しました。インターネットショッピングは、時間や距離を短縮し、これを利用しない手はないと思いました。セキュリティについて勉強し、自分で利用したいと思っています。私は、漁師ですから魚介類を獲り新鮮なものを提供するのが仕事です。漁をしながら、お客様に新鮮な魚介類の情報を、リアルタイムで発信していきたいと思っています。お客さんも生産者の顔が分かり、すごく合理的であると思います。

また、私は高齢者クラブの役員をしています。会員の皆さんに、「昔は高齢になると第一線から退き隠居するイメージがありましたが、今の時代は、インターネット等を利用することで、たくさんの友人ができ、新たな社会とのつながりができ、まだまだ、楽しく便利な世界がある。すばらしい生き甲斐づくりができる」ということを機会あるごとに話をしていきたいと思っています。

【事例4】タブレットを地域のボランティア活動の状況を発信

私は、PCを使って、地域活動の案内状・企画書・予算書等の文書作成や写真編集等を行っています。タブレット、スマートフォンの利用経験はなく、タブレットは、PCと何が違うのか？ 何ができるのか？ 情報を容易に発信する方法等を知りたくて、講習会に参加しました。そして、タブレットは、持ち運びができ、どこでもタイムリーな情報の取得・発信ができることが分かりました。この便利さを地域のボランティア活動に活用しています。

- ・タブレットを利用できる仲間をつくるため、地区の女性部に呼びかけ、「NPO法人シニアネット光」から講師に招き、1月18日にiPad講座を開催（8名参加）しました。
- ・「伊保木楽々会」の活動で、平成22年10月から、「光市コミュニティ交通事業」を活用して、高齢化率の高い（61%）伊保木地区で、交通弱者の生活を支援しています。交通弱者の送迎の車中、タブレットで行事の案内や写真を見せ喜ばれています。高齢者自身が参加した行事は、興味をもって見て貰えます。今後は、動画も見せるようにしたいと思っています。
- ・伊保木道路見回り隊（平成26年度光市元気なまち協働推進事業の交付団体）として、緊急車両等の通行の妨げとなる「支障木等の伐採とその有効活用」活動を実施し、活動状況をFacebookへ発信しています。伊保木地区のファンや協力者を増やして地域の活性化につなげていきたいと思っています。

【事例5】外国人に日本語の筆順を教えています

私は、携帯電話を、緊急用として「ガラ携」を保有していますが、メール連絡以外に、特別必要性を感じることはありませんでした。最近になって、インターネット接続可能なスマートフォンに興味を覚え、持ち運び可能で大画面のiPad miniを購入しました。しかし、実際には活用する方法が解らず、かつ、必要性を感じずとも無く月日が経ってしまいました。タブレットの講習があるとの情報をキャッチし、早速、応募しました。

私は、定年前後の頃から社会との接点を持つために、いくつかのボランティアグループに属しており、今回の受講を通じて、各種アプリケーションの検索方法がわかり、現在行っているボランティア活動に役立てています。また、講習会終了後、大垣市でタブレット持込みの講習会が開催されたとき、サポート役を頼まれたので、2回担当し、新たな勉強ができました。

- ・(公財)大垣国際交流協会、ブラジル人や中国人等の外国人(市内には約6千名在住)に日本語を教えています。「筆談パット」(アプリケーション)で日本語の筆順を教えると、良く理解できたと喜ばれます。
- ・(社会福祉法人・大垣社協)聴覚障害者支援グループで、パソコンによる文字通訳(要約筆記)を勉強しながら、実際の活動にも参加しています。まだ、個人的なテスト段階ですが、「IP Talk Viewer」(アプリケーション)を搭載したタブレットに別のパソコンから講演内容等を同時通訳的に送信すれば、聴覚障害者にとっては、大きなメリットがあると考えています。

b) 効果的かつ効率的な講習会の進め方とその留意点

一 講習会の実施計画等 一

講習会は、具体的な計画を立案して実施することが重要である。現状の課題を把握し、実施目的及び実施目標を定め、それを達成するためのプロセスを設計して実施計画として取りまとめる。継続的に実施する講習会であれば、講習会終了毎に実施計画を見直すことも必要である。また、講習会の計画及び実施は、必要な都度、ICTリテラシー等に関する有識者に指導や助言等を受けると効果的である。

まず、効果的かつ効率的な講習会を実施するため、次のような観点から実施計画書を作成することが重要である。

- ・実施目的を明確に決める
- ・講習会の実施目標を明確に決める
- ・講習会を実施する資源の前提条件を数字で明確に決める
- ・講習会の実施に関する費用は、詳細に見積る
- ・講習会の目的に見合った受講料を決める
- ・講習会の開催時期、曜日等は、受講者が集まる時期・日時等を考慮して決める
- ・講習会関係者の事前の意識合わせを行い、実施するための基本的な運用ルールを決める

講習会の実施に当たっては、限られた予算の範囲内で、講習会の実施目的及び実施目標を、如何に効率よく達成できる内容であるかが重要であり、受講者に分かりやすい講習を提供し、良い評価を受ける内容でなければならない。このため、標準カリキュラムの作成は、講習会の実施において、最も重要なポイントである。

講習会で使用する標準カリキュラムは、次の観点で作成するのが重要である。

- ・講習会に出席したくなるカリキュラムとする
- ・座学が長いと厭きてしまうため、ICT機器に触れたい気持ちを大切に
- ・講習は、高齢者の特性に合った質と量、そして、復習についても考慮する

講習会は、講習会を運営する関係者と受講者との間の信頼関係がその成否を決定する。このため、地域に密着したICT関係の活動を行っているシニア団体等と連携し、受講者から信頼される実施体制と協力体制を構築することが必要である。

－ 講習会の事前準備 －

講習会の会場は、受講者が集まりやすい、交通の便が良いところ（公共交通手段でアクセスが可能である／駐車場が完備されている等）を選択すると効果的である。公共施設の利用料は比較的安価ではあるが、休館日、使用可能時間、申込方法等の制限があるため、事前調査が必須である。会場の事前調査に当たっては、設備状況、特に、インターネット接続環境の確認が重要である。

講習会向けのICT機器は、多くの選択肢があるが、高齢者向きには、タブレットが適している。講習会に使用する機器の選定及び配備に当たっては、受講者目線で行うことが重要である。

講習会の実施には、受講者研修教材が必要である。受講者研修教材の作成に当たっては、講習会の実施目的及び実施目標を考慮して、標準カリキュラムに沿って作成することが重要である。特に、受講者研修教材は、受講者目線で作成する必要がある。なお、受講者用研修教材は、受講者間での共用を避け、自宅に戻って復習できるように、受講者それぞれに配布すると有効である。

受講者用研修教材の他、講習内容の統一性を図り、また整合性を確保するため、受講者用研修教材をベースとした講師用研修教材も必要である。講師用研修教材は、講習に必要な具体的作業、講習の内容、講習の進め方等の講習のポイントを記載し、講習会の講師を務める際の指導書とする。

講習会を効果的に実施するためには、講師とそれを支えるICTサポーターが重要である。講師は、受講者3～4人に1人が望ましく、また、有償のボランティアとすることで、講習に責任を持たせることが有効である。

講習会の受講者募集は、講習会の目的、受講条件及び費用対効果を考慮しながら、主催者の実情に合わせた募集方法で募集する。募集方法としては、「広報誌に掲載する。チラシやポスターを印刷して公的施設に置く、又は掲示する。地域の老人会やシニア向けのサークル等の人的ネットワーク（口コミ等）を活用する。」が一般的であり、公的な広報媒体を利用すると、費用対効果の面からも有効である。受講者の募集に当たっては、「募集要項を漏れなく、正確に明示する。受講者選定基準を明確にす

る」ことが重要である。

応募の受付に当たっては、応募者と受付者の両面を配慮し、応募状況が把握できるようにする等、受付方法にも工夫をすることが必要である。また、受付とは別に、問合せ窓口も必須である。さらに、受講者の受講日の勘違い等を防止するため、受講決定通知にも工夫を行うと、トラブル防止等に効果が高い。

－ 講習会の実施 －

講習会は、基本的に、講師及びICTサポーターが中心となって実施する。講師は、講習会の実施目的及び実施目標から決められた標準カリキュラムに従って、受講者が欠席せず、厭きずに、楽しく受講して、ICTリテラシーの向上につなげるように講義を進めなくてはならない。ICTサポーターは、講習会を実施する講習会会場の設営等諸準備、講習会の受付、講習会の実施状況の記録を行い、講師が問題なく講義ができる環境を構築しなければならない。

したがって、本番の講習会を始める前に、講師及びICTサポーターが協力して、講習会のリハーサルを行う必要がある。なお、講習会のリハーサルは、本番環境で、本番状態で行うことが重要である。

講習会の実施に当たっては、次の観点で実施することが重要である。

- ・受講者が安心して、楽しく受講できる環境作りに配慮する
- ・一日の講義時間は、3時間程度とし、1時間間隔で休憩をとる
- ・講義内容は、一般的事例だけではなく、地域にあった事例も加える
- ・講習会で使用する端末機器の維持・管理は、タイミング良く行う

効果的かつ効率的な講習会を実施するためには、講習会の実施に当たっての課題や問題をフィードバックし、次回の講習会に役立てることが重要である。その手段として、受講者からのアンケートを利用すると効果的である。アンケートは、記名式にすると、本音が聞けない、空白回答が多いという結果となるおそれがある。また、アンケートの量は、A4用紙1枚程度とし、アンケート項目の配置と回答者の目線の流れを一定にし、回答しやすくし、空白回答とならないように工夫することが重要である。

また、講習会が複数日にまたがる場合には、講習会毎にアンケートを回収すると回収率が向上する。

その他、今回の講習会では、限られた時間の中で地域実証を繰り返し行う必要があり、機器の回転の確保が不可欠であったため、機器の持ち帰り（貸出し）を行っていないが、高齢者にとって持ち帰りによる反復学習は、理解の促進や効率的な講習会運営に極めて有用な学習方法である。それを実現させるためには、講師がいない家庭等の学習環境において、通信を介さずSNSやオンラインショッピングを擬似的に学ぶことが可能な、教材アプリケーションの開発・提供が強く望まれる。

3. 実証事業の成果及び地域への展開

(1) 実証事業の成果のまとめ

本実証事業は、総務省が公募して全国から選定した11自治体で、前半グループ（5自治体：平成26年9月～平成26年12月実施）と後半グループ（6自治体：平成26年12月～平成27年2月実施）の二つのグループに分けて、講習会を実施した。

本講習会は、自治体とその地域に密着してICT講習会の開催等の活動を行っているシニアネット団体等と連携し、全国の11自治体の36地域会場で、107人の委嘱した講師及び115人の委嘱したICTコーディネータの協力を得て、992人の高齢者に対し、「標準カリキュラム」に従って、66コース（1コースは、約15人の受講者、4講習（1講習当たり3時間）で計12時間の講習で構成）の講習会を計画どおり実施した。

a) 講習会の目的について

本講習会は、高齢者がICTを利用して日常生活において、楽しく、便利なものとして賢く利用できるように、更に、ICTを活用したコミュニティ形成やボランティア活動等地域社会への参画につながるよう、ICTリテラシーの向上を図ることを目的に、「標準カリキュラム」に沿ったテキストを作成して実施した。そして、次に示すアンケート及び評価結果から、受講者にとって理解しやすい講習会を提供できたものと考えられる。なお、下記のアンケート結果は、“未回答”の回答を除く値を母数として評価した。

(受講者のアンケート結果)

・講習会全般（講義内容、講義時間、教材内容、講師）について

イ) 講義内容

（とても）わかり易い又はちょうど良いと回答 79%

	とても わかり易い	わかり易い	ちょうど 良い	少し難しい	とても 難しい	未回答
892	140 (18%)	293 (39%)	171 (22%)	144 (19%)	13 (2%)	131

※「2.1(2)③a) 標準カリキュラムの構成と講義内容について」参照

ロ) 講義時間

ちょうど良いと回答

76%

	とても長い	長い	ちょうど良い	少し短い	とても短い	未回答
892	17 (2%)	44 (6%)	581 (76%)	105 (13%)	22 (3%)	123

※「2.1(2)③b) 標準カリキュラムの時間配分(講義時間)について」参照

ハ) 教材内容

(とても) 分かり易い又はちょうど良いと回答

76%

	とても わかり易い	わかり易い	ちょうど 良い	少し難しい	とても 難しい	未回答
892	122 (16%)	299 (38%)	169 (22%)	170 (22%)	15 (2%)	117

※「2.2(2)② 受講者用教材の作成」参照

二) 講師

(とても) 分かり易い又はちょうど良いと回答

90%

	とても わかり易い	わかり易い	ちょうど 良い	少し難しい	とても 難しい	未回答
892	214 (28%)	310 (41%)	162 (21%)	74 (9%)	5 (1%)	127

※「2.2(3)① 講師の配置及び研修」参照

・タブレットの利用について、

継続的に又は今後、利用したいと回答

75%

	継続的に 利用したい	今後、 利用したい	必要があれば 利用したい	利用する つもりはない	未回答
892	236 (27%)	410 (48%)	219 (25%)	2 (0%)	25

※「2.1(2)③a) 標準カリキュラムの構成と講義内容について」参照

・社会参画活動について

是非してみたい又は興味を持ったと回答

92%

	社会参画活動を 是非してみたい	社会参画活動に 興味を持った	社会参画活動は 関心がない	未回答
884	171 (21%)	574 (71%)	69 (8%)	70

※「2.1(2)③a) 標準カリキュラムの構成と講義内容について」参照

(講師のアンケート結果)

- ・受講者の社会参画への取組みについて

活動したい、又は興味を感じたと評価 **75%**

	社会参画に向け活動したい	社会参画に興味を感じた	社会参画は難しい	社会参画へは関心がない	未回答
656	174 (27%)	305 (48%)	140 (22%)	17 (3%)	20

- ・講習会の内容が「ICTリテラシーの向上」に適した内容であるかについて

(十分に) 適した内容であると評価 **84%**

	十分に 適している	適している	余り 適していない	適していない	その他
142	12 (9%)	107 (75%)	14 (10%)	2 (1%)	7 (5%)

b) 講習会の目標について

本講習会は、OECD国際成人力調査の「ITを活用した問題解決能力」等の客観的指標の「習熟度レベル1：汎用的なアプリケーションを利用して、自分で必要な情報へのアクセスや情報交換を行い、問題解決する操作ができるレベル」を習得することを目標として実施した。アンケートの結果では、基本操作や電子メールの利用方法等について、多くの受講者がスキルアップを実感し、それに伴い「一人で操作できるようになった」の高い回答率(42%)につながったと思われる一方で、半数の者が「指導を受けないと操作できない」と自らのスキルに不安を感じており、このように感じる者の不安を払拭するためには、本講習会で習得した電子メール利用方法等のスキルを反復して活用し、操作に慣れることが必要と思われる。なお、講師に対するアンケートでは、72%の者が目標達成に適した講習内容と回答している。

以上のことから、操作に不安を感じる者があるものの、情報へのアクセス・発信等に関し、一定のスキルの習得が認められ、また、適切な講習内容と認められ、本講習会で掲げる目標は概ね達成できたと考えられる。

なお、下記のアンケート結果は、“未回答”の回答を除く値を母数として評価した。

(受講者のアンケート結果)

- ・講習会の内容に関する受講者の理解度について

(よく) 理解できた、又はある程度理解できたとの回答は、

- a) タブレットの基本操作 <第1日目の講義内容> **92%以上**
 ※「2.1(2)③a) 標準カリキュラムの構成と講義内容について」参照
- b) タブレットを便利に使う <第2日目の講義内容> **79%以上**
 ※「2.1(2)③a) 標準カリキュラムの構成と講義内容について」参照

c) タブレットを趣味で活用する <第3日目の講義内容> **63%以上**

※「2.1(2)③a) 標準カリキュラムの構成と講義内容について」参照

・タブレット操作に関する習熟度について

タブレットを講義後、一人で操作できるようになったと回答 **42%**

	以前から一人で操作できた	一人で操作できるようになった	指導を受けないと操作できない	指導を受けても操作できない	未回答
892	57 (7%)	360 (42%)	425 (50%)	12 (1%)	38

(講師のアンケート結果)

・講習会の内容が「習熟度レベル1」の達成に適した内容であるかについて

「習熟度レベル1」の達成に(十分に)適していると評価 **72%**

	十分に 適している	適している	余り 適していない	適していない	その他
142	11 (8%)	90 (64%)	29 (20%)	2 (1%)	10 (7%)

c) 講習会の改善点等について

本講習会は、全体として、当初の目的及び目標を達成したが、講習会を進めるにつれ、実施した結果として、次の改善点等が明らかになった。

- ・本実証事業は、前半グループと後半グループの二つのグループに分けて実施した。前半グループは、平成26年9月から平成26年12月まで、後半グループは、平成26年12月から平成27年2月まで、それぞれ約3ヶ月の実証期間であったが、前半グループと後半グループの講習会の間に、一部、重複が生じたが、前半グループの講習会で発生した、会場のインターネット環境の問題や講習方法、カリキュラム、テキスト等の問題は、対策して、後半グループの講習会に反映し、PDCAを回すことができた。一方で、前・後半のグループ分けを行わず、多種多様な講習会モデルを立案し、同時に実証する方法が考えられる。
- ・本講習会は、実証事業であったため、限られた短期の講義時間内で、ICTのスキル習得に留まらず、趣味等を通じた交流や就労、起業、地域が抱える課題解決への取組など、高齢者が地域で活躍できる存在であることを気付かせ、行動へつなげるための動機付けを行えるよう、標準カリキュラムには、多種多様な講義内容を盛り込んだ。そのため、講義の内容は、多様な項目を受講できる内容であった。受講者の中には、「講義内容は詰込み過ぎである」、「特定の講義内容を習得するレベルまで行って欲しかった」という意見があり、実際の講習会の実施に当たっては、講習会の目的や受講者のレベルに合った特定の項目を重点化することも有効である。

- ・本講習会は、高齢者が、ICTを活用したコミュニティ形成やボランティア活動等地域社会への参画につながる動機付けになるようICTリテラシーの向上を図ることを目的に、受講者は、“講習会実施地域の高齢者”という条件のみで募集した。その結果、“タブレットを所持していて操作方法を習得したい受講者”、“PCは持っていて使用しているが、タブレットを所持していないので経験したい受講者”、“携帯電話は利用しているが、他のICT機器利用したことがない受講者”等、ICTに関する技術レベルが異なる受講者が集まって講習会を実施した。そのため、講師達は、講義の速さや説明方法等で、大変、苦労した。受講者の中には、「講義内容は、少し難しい又はとても難しい。講義時間が短い」という意見もあった。受講者の技術レベルをあるレベルに統一するには、受講者の募集時に、講習会の目的（達成レベル）、現在のレベル等を明確にして募集することが必要である。

（２）実証を通じて得た成果の他地域への展開

実証を通じて得た成果を広く他の地域へ展開するため、高齢者が社会参画を実現し、自らを活かし、役割を担った事例（５事例）、受講者又はシニアボランティアの講師等から好評であった講習会の取扱い（９事例）を取りまとめるとともに、「高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会」の開催を可能とするための講習会の進め方や留意点を『高齢者のICTリテラシー向上に資する講習会』に関する手引書」として、冊子にまとめて、全国の都道府県（４７）及び市区町村（１，７４１）に配布した。

本実証事業終了後も、実証を通じて得た成果を利用して、当協会が運営する「シニア情報生活アドバイザー制度」を支える養成講習実施団体と連携して、継続的にシニアボランティア講師の育成、ICTリテラシー講習会を推進していく。